



芝浦工業大学 校友会だより

SIT Alumni Association

Vol. 19

2014

芝浦工業大学校友会の概要と活動について

校友会は、昭和2年に発足しました。本部を東京都港区に設置し、海外（韓国・台湾）を含む北海道から沖縄までの地域に居住している卒業生で構成される「地域支部」、官庁や企業などに在職や退職の卒業生で構成される「職域支部」、「学科支部」、研究グループ・スポーツ等共通するグループの卒業生で構成される「同好支部」など現在81の支部を組織し、本部と連携して様々な活動を行っています。

なお、校友会の目的は、会則第3条、第4条にかかげられているとおり、会員相互の交流と親睦を深め、会員の社会活動の増進に寄与すると共に母校の教育研究事業を援助し、母校の発展に寄与することとしております。

平成26年度実施の校友会活動計画の一部を列記しますと、

- 1、在校生への就職支援活動
- 2、在校生の研究・実習活動への協力・卒業生による実学サロンの開催
- 3、在校生主催「芝浦祭」・「大宮祭」への支援
- 4、入学生への校歌CDの贈呈
- 5、新卒業生への記念品の贈呈
- 6、母校開催父母懇談会への協力
- 7、母校開催のホームカミングデーへの協賛
- 8、母校開催の新年交歓会への協賛
- 9、母校記念事業への協力
- 10、箱根駅伝予選会出場への支援活動
- 11、校友会全国総会、賀詞交歓会の開催
- 12、校友会各支部への活動支援
- 13、全国卒業生の名簿編纂
- 14、資格取得講座の提供

などとなっております。又、来年度以降も各種の事業活動の協賛・支援等を含めさまざまな活動を行ってまいります。これらの活動を通じて芝浦工業大学の在校生と教職員の連携及び協力関係を密にすることにより大学の社会的基盤をさらに強固なものとしたたく活動して参ります。

今後とも校友会活動に是非ご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

目次

芝浦工業大学校友会の概要と活動について

役員挨拶

会長挨拶	1
理事長挨拶	2
学長挨拶	3

イベント紹介

伊原監督インタビュー	4
箱根駅伝	8
鳥人間大会	10
ロボットサークル	12
実学サロン	14
「校友会ホームページの利用推進」について	22
全国総会	23

委員会報告

総務広報委員会	26
財務委員会	27
事業委員会	28
組織委員会	29
例規委員会	30
特別委員会	31
校友会組織図	32

支部活動報告

東北ブロック 各支部長挨拶	33
---------------	----

ニュース

御寄付の御礼、編集者・協力者一覧	42
------------------	----

会 長 挨 拶



芝浦工業大学 校友会
会 長
鈴見 健夫

建築学科
昭和 45 年 卒業

校友の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は校友会活動にご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。今回からは「校友会だより」と名前も改め、2月発刊とし、新卒業生の方にお渡しできるように致しました。校友会員の仲間入りをした新卒業生の方々は、ほとんどの方が全国あるいは海外で勤務されます。そこで頼りになるのが校友会です。校友会の支部は全国にあり、知らない地方に勤務されても、先輩たちが沢山います。是非、交流の輪を広げていただきたいと思います。

芝浦工業大学の志願者数は、昨年（2013年）は37,000人弱と過去最高を記録し、2008年の24,000人と比較し大きく増加しました。私が1966年に入学した時の同世代人口は250万人でしたが、志願者数は11,000人位でした。現在の18歳人口120万人と比較すると、本学の志願者増加は際立っています。

これは、本学の卒業生が社会の中で確実に実績を残し、高い評価を受けていることや、学生の能力が上がったことが要因であると思われます。校友会としては、就職率100%を目指す支援活動を進めています。就職率ランキングでは、常に上位にある本学ですが、例年90%前後で推移しています。校友の皆様の支援により100%を目指したいと思います。

校友会が応援しています陸上部の箱根駅伝予選会には、一昨年に続き昨年も出場しました。成績は40位から31位へと成績を上げ（昨年は13位までが本選出場）、応援も100名を超える教職員、卒業生、後援会の皆さんが駆けつけました。「今年はもっと上位が狙える」との監督の話があり、10月の予選会を楽しみにし、当日は会場（立川市の昭和記念公園）に応援に行きたいと思っています。いつの日か本選出場できるように大学にも支援を働き掛けたいと思っています。

校友会役員一同は、「役に立つ」校友会をめざし、今後も活動してまいります。校友会にご要望等がありましたら、本部事務局に連絡頂きたいと思っています。最後に、卒業生、ご家族の皆様のご繁栄とご健勝を心から祈念申し上げます。



芝浦キャンパス

理事長挨拶



学校法人芝浦工業大学
理事長
五十嵐 久也

徳川幕府が滅んだ145年前には日本は世界から孤立していた、元駐日サウジアラビア王国特命全権大使ムハマド・クルディー氏は指摘する。そして「しかし1868年に即位した明治天皇は西洋に学び彼らと同等の立場に立たなければならない」と呼びかけた。そして知識と技術の中心であるベルリン、ロンドン、ニューヨーク、ワシントン、パリなどの大学へ留学生を派遣し、「すべてを理解しなさい、そしてそれを日本に伝え、それを礎に新しい時代を創り上げようではないか」と。

日本の近代化は全ての領域で飛躍的に進歩を遂げた。今日の日本の発展は教育が源泉であることを疑う人はいないであろう。一方において1868年から1912年に至る45年間に未曾有の速さで反映し世界へ向けて開国を実現した。その後、太平洋戦争で敗戦国となり科学技術においても破壊的打撃を受けた。しかし戦後、工業力を回復させ世界第二位の経済力を持つに至ったのは科学技術立国を築いたことに他ならない。

芝浦工業大学の前身が有元史郎によって、86年前に創立されたのは、まさしく科学技術こそが資源の乏しい我が国にとって最重要であるとした創立者の慧眼と言えよう。「社会に学び、社会に貢献する」この技術者魂が本学の存在をより強固なものにしている。

本年中には、都合50人ほどブラジルから留学生が本学で学ぶことになる。ブラジルにしても、トルコも農業主体の途上国であろう。先進国へと転換していくには、自国の科学技術者育成が必須である。明治時代以降先進国に出かけて学び、また国内で先進国の教員、技術者の指導によって今の日本があるとするれば、今度は途上国に手を貸すのはそれが努めというものであろう。

世界は一国だけでは存在できない。あらゆるものが各国との協同で成り立っている。グローバル化とは途上国の学生、教員が先進国の交流を通して等しく科学技術を身につけることもその一つと言えるのではないか。



豊洲キャンパス

学 長 挨 拶



学校法人芝浦工業大学
学 長
村 上 雅 人

真のグローバル化をめざして

現在、芝浦工業大学はグローバル化の推進に力を入れています。その重要な視点は、単なる欧米の模倣ではないということです。1980年代に、世界のボーダーレス化が急速に進みました。この時、多くの欧米系企業が国際戦略に失敗しています。それは、自分たちの基準を、無理やり他国に押し付けようとしたからなのです。

地域の特殊性を理解し、その歴史、文化を尊重してこそ、真の国際化は進みます。かつて、日本に外国人社長が誕生したときに、しがらみや情がないため、大胆なリストラができると歓迎する声が聞かれました。そして、日本の終身雇用制についても世界標準から遅れていると揶揄されました。

本当でしょうか。企業が人を切るのは最後の手段としなければなりません。簡単に従業員のクビを切る会社のために、誰が一生懸命働こうとする気になるでしょう。長い目でみれば、そんな会社は存続できないのです。

日本には、100年以上の歴史をもつ会社が2万6千社以上もあります。世界に類をみない企業長寿社会です。それは、従業員のことを大切に考える経営者のもと、社員が一丸となって、知恵を出し、汗をかき、時代の変化に柔軟に対応してきたからなのです。ひとを大切にしない組織はつぶれます。これは、大学にも言えることであり、グローバル化においても重要な視点です。

ひとを大切にするためには、性別や、人種、宗教、国籍、身体的特徴などの違いを尊重し、互いを認め合うことも重要です。このような多様性の理解には、経験も必要です。私は、高校時代にアメリカで一年過ごしましたが、そこで学んだことは一生の宝です。

だからこそ、わたしは学生に海外に行きなさいと言っています。いま、本学では、多くの学生が海外を経験できるプログラムを用意しています。

ただし、グローバル化は、学長が宣言しただけでは進みません。教職員と学生が、その大切さを認識し、自ら進めることが重要です。校友の皆様にも、本学グローバル化への支援をお願いして、学長の挨拶とさせていただきます。



大宮キャンパス

埼玉西武ライオンズ 伊原監督に聞く



インタビューに答える伊原監督

本学を卒業しました伊原春樹さん（S46年・工経卒）が、再び埼玉西武ライオンズの監督に就任されました。大変に素晴らしいことであり、校友にとっても誇りに感じられることでもあります。校友会としても、重い責任を担われる監督に最大のエールを送りたいと思います。

そこで今回は、伊原監督に本年の目標、若手を中心にした校友の方々へのメッセージ、勝負の世界の厳しさ、仕事の中での困難をどのように乗り越えるか等、多岐にわたるインタビューを行いました。監督と、大学時代に、同じ野球部で過ごされた方々にも同席を願い、有意義なインタビューとなりました。

（インタビュアー： 校友会事務局 田口侑子）

Q この度は、埼玉西武ライオンズの監督就任、おめでとうございます。就任にあたって、今年の埼玉西武ライオンズの目標、抱負などお聞かせください。

「目標は優勝しかありません。ライオンズにはその実力があります。テレビで解説をやっているときも、好きな球団ですから二軍を中心に選手を見続けてきました。その上での確信として結果を出したいと思います。」

Q ではその優勝のために埼玉西武ライオンズには、何が必要だと思われますか？ また、そのためのキーマンを上げるとすればどなたでしょうか。

「それはもうキーマンというよりも、全員が今年以上の成績を上げることです。一人ひとりの成長がチームの力になっていくので、個人の力を上げていくというのが一番の前提になります。その意味では選手全員がキーマンになります。」

Q 監督から見て将来性のあるのはどのような選手ですか。

「ジャイアンツをやめてから2年間、ライオンズを中心にテレビ解説をやってきました。多くの選手を見てきました。その中で宝石のように光る選手と、そうでない選手がいます。いまの実力で『いっぱいいっぱい』と感じられる選手もいます。それでもプロ野球に入ってくるのですから、天性のものを持つ原石なのです。私は一軍の監督ですから、やっぱり勝つためには何をすべきか、を考えてやるわけです。ファンのためには、選手という原石をどうやって磨いて、一軍に一人でも二人でも引っ張り上げることを考えていました。一軍と二軍ではね、まるっきり世界が違うんです。一人でも多く一軍に上げてあげたいと思います。」

Q 私たち校友が、優勝を目指す監督を応援するために何をしたらいいですか。

「日々の試合で調子が悪い時でも、ライオンズを応援して頂ければそれで十分ですよ。」

Q 監督は10月の秋季練習初日に選手に対して茶髪やヒゲの禁止などルールを作られましたね。選手ではありませんが、新社会人となった若者に「社会という組織で生きていくために望むこと、何に注意すればいいか」監督でしたらどういったお言葉をかけられるでしょうか。

「一般企業の社員に茶髪・ひげ面がいますか。いないでしょう。自分一人で勉強してそれで一流になったのならだれも文句言いませんよ。ところが、大きな企業とか、スポーツの世界、なかでもプロ野球はそうはいきません。プロ野球はもう日本の文化になっています。多くのファンに見られるということはそれだけ模範になっていかなきゃいけないでしょう。それが茶髪だ、ひげ面だ、ではまずい。そのあたりの根本的なことを考えていかなくはいかんと思うんです。



「ところが、監督でも選手に注意しなければならぬ時に、しない人がある。組織というものの勉強不足の人がまだいっぱい

監督の人柄が感じられるインタビューーとのやりとり

る。たまたま僕も歳をとってるんでね、そのあたりが組織の中においては、どうであるべきかということを経験してきています。これは普通に当たり前のことだと思うんですよ。」

Q 監督の2011年のご自身の著書の中で「まだまだ監督をやりたい」という言葉で締めくくってありますが、その通りになりました。

「そういう気持ちがあったから、今があるんじゃないかと思うんです。そのためにいつでも監督に復帰できるように、日々努力していました。常に現場を見に行ったのもそのためです。」

Q 何がこの監督復帰という結果に結びついたと思われますか？

「何が、というか僕の現役の時からプロに入ってずっと座右の銘が『野球道に全力』ですから。だから今さら他の職業に就けないしね、もうここまできたら野球しかないわけです。それを一生懸命に、その自分の職業、プロ野球の世界に携わるということです。それに全力投球するということが、やはりこうして認められたのだと思いますね。」

Q 友情、仲間の存在について、どのようにお考えですか。

「それはもう特に、ぼくも野球ばかりやってきたので中学・高校、それから大学も野球部以外の友人は、何人かはいますけど多くはありません。大学時代の寮で寝起きからすべてをお互いに知られている。兄弟以上の強いつながりがあると思うんですよ。だからそういうものは、今でもこうして何かあると電話をかけあっているのです。」



Q 最後に、芝浦の校友に伝えたいことをお願いします。

「ぼくは芝浦工業大学に入ったのですが、卒業した学科は『野球部学科』といえます。それほど野球に熱中していました。いま在学中の人は、それぞれの学部で専門的に勉強している。高校からそうやって、地道に学んで自分はこういう職に就きたいという志を持ってはいつてきている。素晴らしいことです。それに向かって、全力投球してもらえればと思います。」

《伊原監督と同じ工業経営学科卒業で、大学当時、ともに野球部時代を過ごした中山和彦氏（S45年工経卒）と前野和博氏（S46年工経卒）との対談》

前野：監督の凄いのは、大学入ってきてからプロに行くという目標を決めて、寮生活でも学校にもグラウンドでも挑んでいたということです。そこがえらい。我々はどこかで遊びたかったり、力抜いたりしますが、監督は何が何でもプロに行くんだ、という強固な意志をもっていました。

中山：私からすると一年下なんだけど、彼はまじめ。寡黙で真面目です。それがずっと延長してきた、真面目さが。そこがすごい。

伊原：(笑)

中山：ほんとうにそうですよ。本当に真面目にやってたね。

前野：聞きたいとすれば、十年前に監督二年やってるわけだね。一年目は優勝して、二年目は優勝できなくて。その後オリックスへ移動したよね。

伊原：そうそう。

前野：阪神にもいたよね。今回は再登板ということで、前回にできなかったこと、とかあるのかな。こんなことやってみたいとか。戦略的な面は言えないんだろうけど。

中山：春樹は、今度の監督は大人の監督だよな。もう全然違うと思うよ。

伊原：やはり西武ライオンズで指導者として育てて頂いて、それでここまでできてるわけです。前回の監督の時は二年間と短い、それはいろいろ事情があって二年間で終わったんですけど。今回も一年契約、一年契約でいくから、ボロボロに最下位にでもなったら、それこそ一年で終わるかもわからない。まあそういうことはないけどね。やはりきちっとした、いろんな面で、技術だけでなく選手として、社会人として伸ばしたい。そういうところの強さが西武ライオンズには、あったんだけど、指導されないと選手も「これでいいか」ぐらいの妥協が出てしまう。ダボシャツとかダボパンツとかそういうのは論外で、それは西武ライオンズではない。やはり何としてでもそういうところも、元の強い西武と同じようにしたい。そういう気持ちですよ。選手の戦力なんか考えると、全然引けを取らないですよ。普通にやれば優勝できますよ。



伊原監督の同級生の前野さんは都市対抗で活躍

中山：チャンス十分にあるね。

——優勝やAクラスというのは、絶対条件なわけですね。——

伊原：そうですよ。だからそれは普段から教育せにゃならんのですよ、勝つためには。本当の意味でのチームの輪とか、チームワークを教育していかなきゃならんのです。選手に「チームワークってどういうことだ」って聞くと「仲良くすることです」とか言う。もっと真剣にやっていれば、自ずと答えは出てくるわけです。弱い球団は、やはりチームの輪やチームワークがバラバラです。これが強い球団は違いますよ。「優勝しかない」と決めている。それが伝統になっている。

——つまり、勝つのが当然という、球団を作ることですね。——

伊原：はい。西武ライオンズが強くて勝つのが当たり前であるという、伝統を作ってきたのが森 祇晶さん、広岡達朗さんです。だからフロントもそうだし、現場の選手たちもそうです。目標は一つなんです。全員が優勝という同じ目標を持って戦っていきます。

——ある意味意識改革というものが必要ということですね。——

伊原：そうです。優勝しかないわけですから。

—— 仮にクライマックスでリーグ制覇した、としても意味が違うってことですか。 ——

伊原：そうです。やはり144試合をさあ用意ドン、でスタートして戦うわけです。いろんなことありますが、その144試合を制することが1番の大事なことなんです。それが名誉なんです、選手のね。こんなクライマックスなんてね、とは思いますが。ファンにとっては良いことなのでそれはそれでいいのですが。盛り上がり、ありますからね。

前野：興業的にはいいんだろうな。

—— リーグ優勝でなければ1位じゃない。 ——

伊原：そうですよ。プロ野球の選手はだれでも思ってますよ。たまたま3位から勝ち上がって行って日本シリーズに上がって、優勝して日本一、日本一って騒いでも、それは違います。リーグ優勝もしていないのに何がなの、と思う。だから、とにかくリーグ優勝なんです。リーグ優勝すればあとはもう、おまけみたいなもんですから。

—— 話は違いますが先日、線路におちた男性を西武に入団が決まった選手が助けたっていう話がありますが(※)。 ——

(※西武からドラフト1位指名で入団が決まった大阪桐蔭高の森友哉捕手と友人が、新今宮駅のホームで男性が転落する現場に遭遇した。男性を担ぎ上げた後、救助した高校生二人は名も名乗らず、そのまま登校した)

伊原：たまたま奴らが出くわしただけで、彼らでなくても、だれか他の人でも絶対降りると思いますよ。そういうとこに、出くわしたら誰だってそうしますよ。



監督も尊敬する中山さん

—— 前野さんも何かお教えてください。 ——

前野：4年間一緒でしたから。

伊原：東芝の監督ですよ。都市対抗野球優勝しています。

—— その頃の芝浦って強かったんですね。 ——

伊原：そうですよ。貴重な3回目の優勝していますからね、我々4年の時に。そういう栄光も今はいずこです。

—— 仕事していても駄目なものはダメってのがある。駄目な人の見極めはどのようにお考えですか。 ——

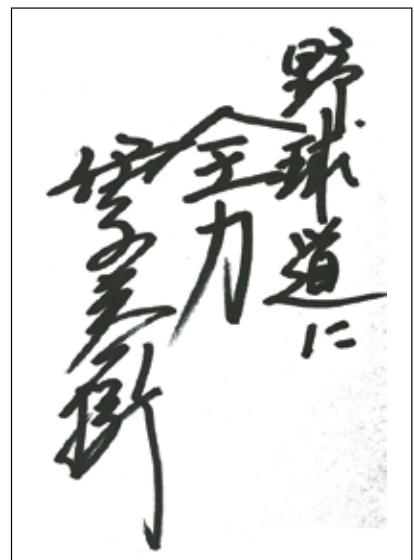
伊原：野球の世界はすぐ結果が出る場所ですから、性格的に問題があっても、グラウンドに立って、打席に立って仕事してくれりゃいいんです。ピッチャーでもマウンドに立って抑えてくれりゃいい。それだけです。あいつ嫌いだから二軍に降ろすような指導者いない

です。なかにはいるかもしれませんが。それは絶対にやっちゃいかんです。同じ目線でグラウンドでの仕事ぶりを見て、それで駄目なものはダメなんです。結果がすべてです。もっともグラウンドで結果を出している人は、真面目に、しっかりと練習していますがね。

—— だけど大変な職業ですね。結果しか認められないのですからね。 ——

伊原：ええ、もちろんそうですね。でもね球団は12、日本に12人しかいないところでやらせて頂いているわけだから、こんな嬉しいことはない。だから大変とか、そんなこと一つもないですよ。応援よろしくお祈りします。

—— 本日はありがとうございました。ご健闘をお祈りいたします。 ——



箱根駅伝予選会を応援しています

(2013年12月記)

昨年の2012年に初出場を果たし、今年二度目の挑戦となる箱根駅伝予選会が2013年10月19日に昭和記念公園で開催されました。目標である箱根駅伝本選に出場するためには、予選会で上位9位に入る必要があります。その予選会に出場するためには5000mの公認記録で16分30秒を切る選手10名以上がチームに必要です。その条件がクリアできたのは2012年でした。

芝浦工業大学・陸上競技部のメンバーは今年も12名が完走を果たし、成績も前回の45大学中40位から大きく躍進して、44大学中31位という結果を残しました。また昨年1月には埼玉県駅伝競走大会にも出場し、「第1部（一般男子の部）」に初出場で2時間23分09秒というタイム、11位の成績を残しております。



「箱根駅伝」が誕生したのは1920年、マラソンの父として知られる金栗四三らの「世界に通用するランナーを育成したい」との思いから創設されました。第二次世界大戦中に一時中断されながらも今に続いています。関東学生陸上競技連盟に加盟している大学であれば出場資格がありますが、正月に開催される本戦に出場できるのは20チームで、前大会で10位以内の大学にはシード校として出場権が与えられます。その残りを予選会で争うという仕組みになっています。本選の様子は毎年、全国放送で生中継されるため正月の風物詩として多くの方の人気があるスポーツ大会です。

校友会の取り組みですが、平成15年(2003年)に校友会執行役員会で、「テレビ放映されるような運動部の推進を図りたい」との提案がなされ、さまざまな調査・検討・審議等を経て、平成17年(2005年)4月に「箱根駅伝支援準備室」の設置、同年7月に「特別委員会」が立ち上げられました。その後、本年度に至るまでの7年間は、陸上競技部員の勧誘、監督の招へい、ランニングコースや宿舍の整備の検討、推薦入学の検討、理事長・学長への要望書の提出、学生センター・陸上部顧問・学生との打合せ、記録会への参加、奨学金制度の立案・実施など、さまざまな企画・提案がなされました。



昨年には初めて予選会への出場が決まったことで、予選会応援会を企画しました。箱根駅伝予選会だけではなく、埼玉駅伝へも応援会を企画し、1月の寒さの中でしたが応援を行いました。

全国から寄付を募り、応援旗を増やし、それが結果となって表れたのが今回の箱根駅伝予選会であったと思います。支援が一つひとつ形となって結果に表れるのを間近で感じ、卒業生の応援にも昨年から本年にかけて一層熱が入ってきているのを感じました。それは応援参加者の人数にも表れています。

初出場の時には応援参加人数が約60名程でした。しかし埼玉駅伝の応援会では1月の入試と重なっているにも関わらず、多くの大学関係者も駆けつけ、校友会と応援会を盛り上げてくださいました。今年の予選会応援会では参加人数が150名以上に増え、校友会員、大学関係者だけでなく陸上競技部の卒業生、卒業生のご家族も早朝の雨模様と寒さにも関わらず、多数応援にかけつけて下さいました。また途中、芝浦の卒業生で他大学に勤めていらっしゃる、という方

なぜ箱根駅伝をめざすのか

欧米の大学では、頭脳が優秀であるばかりでなく、強健な体力を有する学生を育成しています。それと同じように日本においては、クラブ活動をしていた学生は、会社で役立つといわれています。困難な仕事に直面しても、後退しない強さを持っているからだと思われれます。その意味からも、今後の大学はスポーツを重要視する体制が望まれます。

校友会では学業はもとより、スポーツに秀でた学生を数多く輩出したいと力を入れています。それと同時に自主的な活動をする学生も応援します。全ての学生の活動に、応援したいのですが資金的、時間的な制限があり、当面は陸上競技部（駅伝）、チーム・バードマン・トライアル（鳥人間）、ロボットサークル主催者の三団体を重点支援していくこととします。当然のことながら三団体以外にも毎年、課外活動の優秀団体には全国総会の際には表彰も行っています。

芝浦工業大学の社会での評価を高め、ブランディング力の向上を社会の中での活動で目指します。高まった評価により受験生が増加し、より優秀な学生を確保できるようになります。就職・仕事に強い「芝浦」がさらに磨かれることとなります。そんな期待を込めて現役学生を応援します。

もいらっしやいました。勤務先の大学の応援に来られたのですが、わざわざ駆け寄り一言応援の言葉を残していけませんでした。今年の応援会参加は、会員への呼びかけ方法も変えて大学が発行している広報誌へ開催の通知文書を同封することで、全国の卒業生へ参加を呼びかけました。

また何度も参加することで、応援会でのコツというのも分かってきました。今年は予選会の様子が生中継されることになったので応援旗がよく映えるポイントを探し、そこに人員と旗を集めて応援するという効率的な方法をとったので、150名でもいくつかあるポイントには人員がまだ足りないということがわかりました。これを読んで頂いた方はぜひ次の応援会へご参加ください。応援旗が存外に重いという発見がございます。そしてまとめて運ぶとちょっと腕が疲れるということも。ぜひ手に取って実感してください。応援旗には校友会の母校への熱い思いがこもっています。

当初は駅伝に必要な部員数が集まらず、専用のグラウンドもなく、合宿も満足にできないような環境でしたが、学生たちは監督や選手自身の工夫・努力によって練習を続けてきました。授業との両立を図りながら本格的な練習を続けるのは容易ではありませんが、校友会も合宿への寄付を行うなどして、継続的に支援を続けてきました。それが昨年の予選会初出場、続けて埼玉駅伝への出場、そして今年の予選会で順位を大きく上げるという、着実な成果に結びつけました。

現役の学生がひたむきに走る姿というのは、それだけでほほえましくも、胸が熱くなるもので、それが母校の学生であり、校友会の支援が結果に表れる様子は、思い入れが強くなるのは当然といえます。つい応援の声にも熱が入るというものです。芝浦工業大学の旗が箱根駅伝の本選ではためく日まで、この熱を冷ますことなく校友会は一丸となって支援を続けます。



鳥人間コンテストへの挑戦の始まり

伊藤 嘉 将

(H10、機械Ⅱ科卒業、TBT(鳥人間)OB・OG同好会支部長)

鳥人間コンテストは、読売テレビ放送が、例年7月に琵琶湖で開催する大会です。2013年9月に放送された第36回鳥人間コンテストでは、芝浦工業大学の文化会「Team Birdman Trial」が、飛行距離885.40mで一昨年、昨年に続き3位に入賞を果たしました。芝浦工業大学は1995年から鳥人間コンテストに参加しています。今回は、芝浦工業大学のTBTの創設に携わり、2013年に創設した「TBT(鳥人間)OB・OG同好会支部」の支部長である伊藤氏に、当時の様子をご紹介いただきました。

「塩なめろ！塩！」1995年7月29日昼近く、琵琶湖湖畔の芝浦工大チームでは4年生からメンバーに向かって大声が飛んでいました。

今では連続出場13回、準優勝1回、3位3回と鳥人間コンテストには欠かせないチームとなっている芝浦工大 Team Birdman Trial(通称TBT)も、その草創期は惨憺たるものでした。

鳥人間コンテストは、読売テレビ放送(株)が例年7月に琵琶湖東岸の彦根市で開催する大会です。競技は現在では3部門

で、滑空機で飛行距離を競う「滑空機部門」、人力でプロペラを回す人カプロペラ機で飛行距離を競う「人カプロペラ機ディスタンス部門」、人カプロペラ機で決められたコースをいかに短い時間でゴールできるかを競う「人カプロペラ機タイムトライアル部門」があります。いずれの部門でも自作の飛行機で18歳以上のパイロットが操縦しなければなりません。芝浦工大は1995年、96年は滑空機部門、98年からは人カプロペラ機ディスタンス部門に参加しています。7月の鳥人間コンテストに出場するためにはその年の4月に行われる書類審査に合格しなければなりません。書類審査では機体の安全性、独創性、機能等が評価されます。

芝浦工大が鳥人間コンテストに参加するきっかけは、あるひとりの学生の「鳥人間コンテストに出たい」という発言でした。黒木教授の自主ゼミの「ヒコーキ研究会」に所属していたその学生は、1994年に「一緒に鳥人間コンテストに出よう！」と新生を募集しました。張り紙だけの募集活動でしたが、50人もの新生が入会しました。人は集まったが何をすべきかわからないので、2週に1度航空力学の基礎を皆で学びました(結果的にはあまり役には立たなかった)。そのうち黒木教授が、熊本工業大学の機体の設計図と作業手順書を手し、そこでようやく実質的な機体の設計と製作に取り掛かりました。しかしながら、その語句の意味がわからないのです。今と違ってインターネットで検索して、何でも調べるという事はできません。翼の小骨にあたるリブの材料は「スタイロフォーム」との記述がありますが、その意味がわからず、図書館で調べてそれが押出発泡ポリスチレンフォームで、色々な規格がある事が判明します。しかし、その入手方法がわかりません。実は、建材の断熱材としてどこのホームセンターでも売っているものだとわかるまで数カ月を要しました。

全てが手探りで一つ一つ悩んで、調べて、試して、やり直して、機体製作は遅々として進みませんでした。1995年4月に多数の新生が入会し、5月には読売テレビ放送から書類審査合格の通知が届きます。7月の大会に向かって連日の徹夜が続きました。大宮校舎4号館2階が主な作業場でした。5月でも夜は寒く、明け方に仮眠をとる者も多くいました。コンクリート製の床に横たわると体の芯まで冷え、教室の入り口に敷かれたマットレスが人気がありましたが、傘立ての上で寝る者もありました。端材のスタイロフォームの上で横たわる者もありました。元々断熱材なので寝心地は最高でした。出発前日になっても機体は完成しませんでした。トラックは用意できました。4tトラックに若葉マークというものでした。機体は分割してトラックに積載するのですが、機体を積載するためのラックが無いことに前日に気がつきます。慌てて作りましたが、



明け方になっても完成しませんでした。

琵琶湖に着いても機体製作は続きます。パイロットが乗り込む部分の先端は「カウル」と呼び、カウルは炭火で塩ビ板を熱して型に押し当てて成型します。ところが、難しくてなかなかできませんでした。試行錯誤する時間は残されていませんでした。そこで、他大チームに教えを請い完成させました。深夜になっても作業は続きました。他チームは早々にテントで就寝しています。芝浦工大はテントの準備はしていませんでした。力尽きた学生は、順に草むらで仮眠しました。ラッキーにもフライト順は抽選で最後でした。他チームがフライトしている間も作業は続きました。プラットフォームへ移動している間も作業は続きました。1チームがフライトするのに30分～1時間程度かかり、フライト順に並ばなければならないので、数時間も並ばなければならないのです。フライトは午前6時から始まり、午後4時頃まで行われます（現在は2日間に分けられているので午後1時頃には終わります）。昼過ぎ、メンバー全員の疲労がピークに達しました。その時「塩なめろ！塩！」という声と共に塩が回されました。当たり前ですが、7月の琵琶湖は暑い。テントもなく直射日光を浴び続け、水道水をがぶ飲みしていた学生たちは日射病になっていました。塩は美味かった。ふと、横をみるとフライトが終わったチームがバーベキューを楽しんでいます。誰もがうらやましく思いました。高さ10mのプラットフォームに上がる直前に機体は完成しました。プラットフォーム上での読売テレビによる最終機体チェックには間に合いました。このチェックに合格しないと、機体をプラットフォームから湖に投げなければならないのです。最終チェックには合格しました。あいにく夕方近くになって風が悪く、なかなかフライトできません。大会の審判が風などの条件を総合的に判断して許可しないと、離陸してはならないのです。パイロットの松井は一度コックピットに入ってから、出てきて傍らにいた村上に言いました。「村上、頭が入らない・・・」前日の夜に受けた機体チェックで、コックピットの中をパイロットの安全の為に緩衝材を入れるように指摘されていました。その緩衝材とフルフェイスのヘルメットが干渉してしまっていました。緩衝材をつけたのはプラットフォームへ上がる直前だったので、パイロットが入れるか試していませんでした。松井がインタビューを受けている間に、村上が緩衝材を削ぎ、やっと機体は完成しました。

更にしばらく風を待ちました。ようやくフライト許可が下り、松井が走ります。しかしこの時、昇降舵が故障していました。昇降舵は機体の上下の向きを操作するもので、舵は下向きに切れていました。松井が機体を上げようとしても反応しません。機体は放物線を描いて琵琶湖に落ちました。結果は15mでした。

誰も声をあげず、ただ、茫然としていました。機体を回収してもおしゃべりはありませんでした。その時、3年生の勝部が、後輩を集めて言いました。「おまえら。今から肉食うぞ。近江牛買ってこい！」炭火はありました。ブロックと網は近くのホームセンターで、肉はタウンページで肉屋を探して買いました。近江牛はうまかった。皆に笑顔が戻りました。遠くでは表彰式が行われていました。「鳥人間コンテストに出る」から「表彰台にいつか上る」へと目標が変わっていました。

その目標が13年後の2008年に本当に達成されるとは、その時だれも想像していませんでした。その間に滑空機から人力プロペラ機ディスタンス部門に移行し、数々の困難がありました。今でもフライト後に学生たちは打ち上げをしています。湖に飛び込んだり、スイカ割りをしたりおおはしゃぎです。それは、1年間の様々な思いが一気に弾けるようです。その笑顔の輝きは、それまでの苦労に比例します。今年の夏も

TBTは、二人乗り人力飛行機で3km超えのフライトに挑戦します。やがて10kmそして琵琶湖の対岸へいつか到達するでしょう。



ロボットサークル SRDC とは

ロボットを製作し「ロボット製作を楽しむ事」「自分の能力を向上させる事」「大会で勝利する事」「人の輪を広げる事」を目的として活動している部活だそうです。SRDCでは、下記3種類のロボットに特化し、それぞれの大会に参加することを目的としていました。

二足ロボット、かわさきロボット(多脚ロボット)、マウス・トレーサーロボット(迷路自動探索ロボット)

また、ロボット制作だけでなく様々な工作機械を取り入れて、自作することにより実践的な技術向上を行っているようです。3DCADにより図面の作成からNC工作機による製作までを手がけていました。昨年までの成績を下記に記します。



ロボットサークル
SRDC

ロボットを製作し「ロボット製作を楽しむ事」「自分の能力を向上させる事」「大会で勝利する事」「人の輪を広げる事」を目的として活動している部活です。

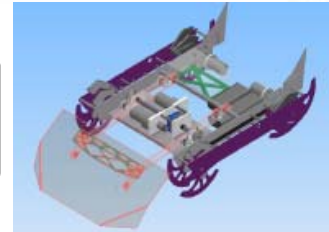
SRDCでは、主に二足ロボット、かわさきロボット(多脚歩行ロボット、マウス・トレーサーロボット(迷路自動探索ロボット))を製作しています。そして、各種大会において優秀な成績を収めることを目指しています。

また、ロボット制作だけでなく様々な工作機械を取り入れて、より実践的な技術向上を行っています。



・設計

3次元CAD (Autodesk inventor) を使用して設計を行っています。使い方は講習会を部内で行って上級生から教わります。



・設備

SRDCでは、ロボットを制作する環境づくりを整えることに努力を惜しみません。その結果、部内には工作機器が充実しており、穴を開けるためのボール盤などから、何十万もする「CNC切削機」なども多数所持しています。これらを使う事により、高精度な部品やギア等も部内で自作しています。また、基板を自作する設備もありマウス・トレーサーロボット(迷路自動探索ロボット)では自作したものを使用して大会に出場しています。



所持している機器の一つ
CNC切削機 EGX-300

教育に関して

SRDCでは、新入生教育に対しても全力で取り組みます。設計図の作り方から、工作機械の使い方、プログラミング、電子回路の設計まで、ロボットを作るのに必要な技術を丁寧に指導し、高性能なロボットを作れるようにしています。

・2足歩行ロボット

人のように2足で歩行するロボット。各関節ごとにモーターが入っており人のような動きができるので、バトル競技だけでなく、徒競走や、サッカー競技、など様々な競技が行われています。全国大会（ROBO-ONE）は9月と2月の年2回あり、第20回大会では、優勝、準優勝とワンツーフィニッシュを決めました。SRDCでは毎年、機体の設計をしながら参加しているので、年々クオリティが上がってきています。



・かわさきロボット

神奈川県川崎市発祥のバトルロボット、特徴的なのが大会ルールで移動方法にタイヤ、キャタピラを禁止されているため、独特な脚機構が用いられています。また、攻撃用のアームを取り付けることもルールで定められており、多種多様なロボットが毎年8月に行われる本大会（かわさきロボット競技大会）で優勝を争っています。SRDCは機体性能で優勝することを目指しており、他団体よりも高性能な機体設計を心掛けています。



・マイクロマウス・トレーサーロボット

一度、ボタンを押したら、あとは自動で迷路を探索し、タイムを競うロボットです。毎年11月頃に大きな大会が開かれており、外国からの参加者もいます。また、階級に別れて大会が行われ、プログラミングの初心者からプロが参加する大会となっています。SRDCでは、そういった参加者がいる中でも、特別賞や、自律賞など技術が認められ、様々な賞を頂いております。



大会成績

二足ロボット第20回 ROBO-ONE 優勝、準優勝

第7回 ROBO-ONE Light 準優勝

かわさきロボット 第18回かわさきロボット競技大会 3位 2013年 KHK杯 準優勝 マウス・トレーサーロボット

第34回全日本マイクロマウス大会 マイクロマウスフレッシュマン競技 特別賞、自律賞

さらに詳しい情報はこちらへ！ <http://srdc.info/>

SRDC 卒業生の体験談

SRDC の始まりと其中で得たもの

SRDC は、芝浦 MIO の生き残りがかわさきロボットを主体としたサークルとしてやり直したものが始まりでした。

大会成績は芳しくなかったですが、そんな中でも少しでも進歩しようと、分野を問わずに貪欲に技術や知識を吸収することに努めました。

今でもその頃勉強した知識がとても役に立っております。社会にでて技術者として仕事を続けていけるのも SRDC にてロボットという複合的な技術が必要な分野の広範囲に渡る知識や経験が生きていると私は思っています。

そして、今でも付き合いがある当時の後輩たちや友人と苦楽を共にした思い出は私にとって一番の宝となっています。

実学サロン

～変革の時代の経営を考える～

異質との出会いが重要

実学サロンの会員講師は、毎回、校友会会員が講師です。社会で活躍する校友や在校生にとって、ビジネス経験を聞くことは、大変に楽しく有意義なことです。魅力的なエンジニアリングや効率的なマネジメントは、その道で体得された方に聞くのが一番であるとの狙いを持った企画です。

2年間実学サロンを実施し、「深い経験と知見に基づく講演で良かった」「生の声は違う。現実ベースの話で興味深く、参考になる」と、アンケートからも参加者から高い評価を得ることが出来ました。

第1回の実学サロンを2012年7月に開講し、2か月に1回程度開講し、11月には第8回の実学サロンを開講することができました。

その間、延べ175名の校友が参加してくれました。その間のアンケートを集計すると「大変良い企画」と「良い企画」の合計が97%（図参照）で良い評価を頂きました。

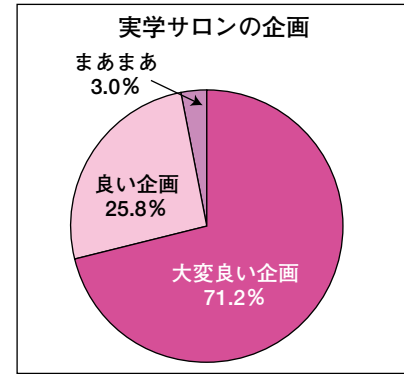


図 アンケート集計結果（2回～8回）



第7回 実学サロンで講演をする浅黄雅彦氏

企画に対してのコメントには「大変ビジネスに役立った」「講師がOBであるところが良い」「新しい分野の知識と情報を得られることと、ある程度分かっている事の場合は、再確認できること」「各業界トップの話が聞けることは、大変喜ばしいことである」「エンジニアリングを学ぶ先輩の取り組み姿勢が分かる良い企画である」「会社の中で悶々としていないで、出て来て視野を広げて



「校友会員の実学研修の場、交流の場にしていきたい」挨拶をする泉澤副会長・総務委員長

実学サロンの講師は校友です

— 校友会員の実学研修の場、交流の場 —

校友による「実学教育講座」を校友向けの学習の場として新規に企画し、再開する事になりました。今までの在校生向けの実学講座は、公開講座として別途検討を進めることとしました。新生実学講座は『実学サロン』という名称に改め、講師には校友会員が社会に出てからの経験や研究活動などを通して学んだエンジニアリングやマネジメントなどの実学といえる体験談や、先端技術などの講演をお願いしております。終了後は、懇親会も企画いたします。校友会員の実学研修の場、交流の場にしていきたいと考えています。

副会長・総務広報委員長 泉澤 定雄

欲しい」「もう少し門戸を開放し、多くの異質な意見を出しやすくしたら」など意見が出ております。参加した学生から「参加し、売れる製品をつくるための大事なことを聞いた」とのご意見もありました。

在校生との関係では「卒業生にとっても、在校生にとっても良い企画だと思う」「経済界を意識した学生の自己投資のきっかけになると思う」「卒業生にとっても、在校生にとっても良い企画だと思う」などがあり、在校生への参加では課題を残しています。

実戦で鍛えた経験と知識を学べる

講演に対するアンケートでは「大変良かった」と「良かった」合計は95%で、企画同様良い評価を頂きました。講演に対するコメントを拾ってみると「ウォシュレットの要素技術が良く分かった」「アフリカに対する認識が変わりました」「講演が実戦で鍛えた経験と知識によって構築されているので、非常に分かり易かった」「非常にレベルが高く、普段めったに聞くことができない話が聞けて良かった」「『チャレンジしている人』という意気込みが感じられ、応援してあげたい卒業生が沢山いるということが判った」「酒造りの大変さ、プロセスが理解できた」「歴史的経緯から今日の技術まで、体験とさまざまな問題解決のためのエンジニアリングの発展過程をきくことが出来た」などが寄せられました。



第3回 実学サロンで講演をする浅野昌宏氏



講師と受講者との間で活発な質疑応答があった

実学サロンの案内は、校友会のホームページをご覧ください。
<http://www.shibaura-koyu.jp/salon/index.html>

表 実学サロンの開催一覧（第1回～第8回）

回数	テーマ	講師	所属	卒業
第1回 2012.7.6	エンジニアリング・ブランドで差別化、高付加価値化 ＜顧客サービスと技術が支える経営戦略＞	小平 和一郎 博士（学術）	（株）イー・ブランド21 代表取締役	1970年 電子工学科
第2回 2012.9.28	ウォシュレットの企画・開発を担当して ＜市場を創出し、ニーズを起こす取り組みを学ぶ＞	吉久保 誠一 博士（学術）	TOTO 元専務取締役	1964年 機械工学科
第3回 2012.11.16	アフリカは魅力ある市場か ＜日本企業の現状と課題＞	浅野 昌宏	一般社団法人アフリカ協会 理事	1969年 電子工学科
第4回 2013.2.8	会社経営の現場で生きる技術経営（MOT） ＜グローバル化が進展、変革期の経営戦略＞	西河 洋一	（株）アーネストワン 代表取締役社長	2009年（大学院） 工学マネジメント研究科
第5回 2013.4.26	イノベーションは止まらない！ ＜半導体・ICT産業の最新技術動向と今後の社会＞	阿部 剛士 博士（技術経営）	インテル（株）取締役・副社長執行役員	2009年（大学院） 工学研究科博士
第6回 2013.6.20	機械工学・人工臓器・バイオレオロジー分野の研究活動に取り組んで ＜人工心臓分野のご紹介と、今ビジネスに必要な国際性を考える＞	渡邊 宣夫 博士（学術）	芝浦工業大学生命科学科 准教授	2000年 機械工学科
第7回 2013.9.6	山形の小さな酒蔵の酒造り ＜おいしいお酒の作り方と飲み方＞	浅黄 雅彦	朝日川酒造（株）、杜氏・常務取締役	1979年 工業化学科
第8回 2013.11.22	鋼構造物の溶接	夏目 光尋	元横河橋梁	1959年 機械工学科

機械工学・人工臓器・バイオレオロジー 分野の研究活動に取り組んで

—人工心臓分野のご紹介と、今ビジネスに必要な国際性を考える—

講師 ^{わた なべ のぶ お}
渡邊 宣夫

(芝浦工業大学生命科学科 准教授、博士(学術)、平成12年機械工学科卒)

今回の講師は人工心臓分野を含む医療機器の研究開発でグローバルに活躍している当大学の准教授の渡邊宣夫氏です。人工心臓の紹介と国内外の製品紹介と研究段階の製品の紹介などと、これまでの留学・海外の方との交流を通じて感じた事、日本的行為・発想と、海外の方のそれらとのギャップなどをご紹介頂き、参加者と共に意見交換をする機会となりました。

生体医工学とは、医療・福祉・バイオの分野に対して工学技術を応用し貢献する分野です。この分野における研究は、体の中で起こっている現象を理解するための基礎的な研究から、今日の医療における治療機器・診断機器・装具などの障害サポートといった応用を目的とする研究(図1)まで幅広くあります。

血液ポンプが実用化段階になった

近年の人工心臓関係のトピックとしては、まず何よりも過去10年間開発段階であった多くの血液ポンプ(人工心臓)が臨床応用されつつあることです。血液ポンプは、(1)弱った心臓をサポートする、(2)あまりに弱った心臓の替わりをする、(3)体外循環装置の中でポンプ機能の役割を担います。血液ポンプには、心不全患者の心臓のサポートをする補助人工心臓と、両心不全患者の心臓のサポートをする完全置換型人工心臓があります。

例えば本邦で開発されたエバハートは、植込み型遠心ポンプとして、臨床で良好な成績をあげています。また、磁気浮上式血液ポンプであるDuraHeartも左心補助人工心臓として期待されています。いずれのポンプも2010年に国内で承認を得ています。

更に2011年には、メラ遠心ポンプが体外循環用血液ポンプとして承認を得ました。その他最近では、ユニークなタイプの人工心臓として、オーストラリアの研究チームが開発中であるBiVACORTMや、米国クリーブランドクリニックが開発中の血液ポンプが挙げられます。

これらのポンプは両心補助人工心臓であり、1つの羽根車の回転に対しその表面と裏面で左心と右心の役割を果たすユニークな機構となっており、従来の血液ポンプの欠点としての軸受部の血液に与える負担を削減する工夫を有しています。新しいのは、構造だけではありません。例えば人工心臓の駆動方法についても、拍動流を発生させるべきか、定常流で大丈夫か、賛否両論が引き続き存在している。定常流ポンプは羽根車の回転数を制御することで、拍動流発生が可能なデバイスが多く存在しています。(図3)定常流でサポート



実学サロンで講演する渡邊宣夫氏



図1 生体医工学の分野紹介



図2 テルモの補助人工心臓 DuraHeart

すると、血管壁が薄くなるという報告がありますが、我々人体の血管血流環境は、環境に適応した結果そのようになったという解釈があれば、血管壁にとってその筋力を維持するためには定常流ポンプ使用時には、もともとよりも2割ほど流量を増やして人工心臓を駆動させるべきという見解もあり、依然としてまた議論の途中です。



図3 弱った心臓をサポートするタイプ
拍動型(左)、無拍動型(右)

海外の研究活動経験から国際性を考える

過去に海外で研究活動を行う機会があったことから養うべき国際性についての私の考えを紹介します。

相互に理解し、新たな向きのベクトルを見つける

国際性とは、外国語を話せる能力ではありません。他の考え方、他の文化を理解・尊重し、日本的考え方を理解させ、お互いの文化や考え方の違いを情報共有し、その違いを楽しみ、相互に理解し合えるために新たな向きのベクトルを見つける事ができる能力です。

異なる考え方同士の異なるベクトルを基に新たな方向性が見出された時は、お互いの理解はもとより、信頼と友情関係が確固となることでしょう。お互いの相互理解には、お互いの立場とお互いの考え方の違いを認め、理解し合うところからスタートです。

日本的考え方と、欧米的考え方の違いをあげるとすれば、日本人は何よりもまず他人を思いやる気持ちが根底にある事、その一方で欧米的な考え方としては、個人を尊重する気持ちであるのではないのでしょうか。ここでいう個人とは自分以外の人という意味だけでなく、自分自身の立場の主張も含まれます。

どちらの考え方が正しいという話ではありませんが、バランスが大切であると思います。つまり、他人に対する過度な思いやりは、気づかれやストレスに陥りやすいであろうし、他の人の意見を無視して自分の意見だけ通してもうまくいかないでしょう。

加えて、考え方の違いの背景には、宗教観も関係するかもしれません。自分を律し他人に親切にという仏教的な考えや、過ちを犯したとしても信じる者は救われるといった比較的ポジティブな考え方も影響するかもしれません。

宗教と理性は実は密接な関係にある

私は宗教と理性は紙一重な存在であると感じています。留学時に、たびたび宗教観の話になった折に、敬虔なキリスト教徒の海外の友人から「仏教徒は輪廻転生を信じているの？」だとか、「日本人は無宗教なのか？」という話題で盛り上がったことを覚えています。宗教と理性は実は密接な関係があると思っています。生活に余裕があれば当然理性が機能するでしょうが、貧しく厳しい環境に置かれた立場になれば、強靭な理性を持っていない限り、拠り所が必要になるかもしれません。

芝浦工大は国際性を養える環境になりつつある

現在の芝浦工業大学では、イタリア・ブラジル・マレーシア・ベトナムなどからの留学生が学んでいます。最近、大宮キャンパスに国際学生寮ができました。その寮では何人かの日本人学生が無料で住んで、留学生のためのサポーターの役割を担っています。研究室で英語を話す機会も私の学生時代と比べて格段に増えました。本研究室でも海外の研究室との交流があります。このように学生が国際性を養う機会は以前に比べて 増え続けており、今後も更に増えていくと思います。



米国テキサス州ヒューストンの研究室との交流
(2013年8月)

【講師略歴】

渡邊 宣夫氏 博士(学術)

2000年芝浦工業大学機械工学科卒、独国アーヘン工科大学研究留学7か月を経て、2002年同大大学院機械工学専攻修了。その後、東京医科歯科大学大学院博士課程にて人工臓器工学分野を研究。2006年学位取得。2006年より日本学術振興会特別研究員DC2ならびにPDを経験。2007年-2009年の期間、独国フンボルト財団奨学研究員として、ベルリンCharite病院付属研究所にて血小板細胞を研究。2009年より本学にてポスドク研究員、2010年よりシステム理工学部生命科学科にて研究教育活動。准教授。医療の発展のために必要なテーマを研究中。

<学術論文> 血液細胞の変形能力・血液ポンプ等

山形の小さな酒蔵の酒造り

—おいしいお酒の作り方と飲み方—

講師 ^{あさぎ}浅黄 ^{まさひこ}雅彦

(朝日川酒造(株)、昭和54年工業化学科卒)

今回の講師の浅黄雅彦氏は、山形の酒蔵「朝日川酒造」で杜氏・常務取締役として酒造りに取り組んでいます。会社の概要と酒の造り方、飲み方などの話を伺い、なかなか伺うことが出来ない「おいしいお酒の作り方と飲み方」を伺うことができました。

木の道具を多く使って酒造りしている

朝日川酒造の創業は、記録によると”文政5年“で現在の会社組織になったのは昭和28年1月29日です。山形県西村山郡河北町谷地にあり、山形県のほぼ中央、山形空港に一番近い酒蔵です。新幹線の駅は「さくらんぼ東根」が一番近く、左沢線の寒河江駅です。

私は昭和54年に芝浦工業大学の工業化学を卒業後、東京の酒問屋に1年ほど勤め、そのあと酒造りの勉強のために東京滝野川にあった国税庁醸造試験所に2年ほど研修生として勤務したあと会社に戻りました。

私の蔵での酒造りは本当に昔ながらの酒造りで、他の蔵ではほとんど使っていないような木の道具を多く使って酒造りをしています。木桶 長柄 木の暖気樽 木のタメ 桃タメ カスリ 櫂棒 麴蓋 などのもっと沢山の木の道具を使用しています。現在は600石ほどのお酒を製造販売しており、日本で唯一官庁が主催する全国新酒鑑評会では5回ほど金賞を受賞した実績を持っています。

全国新酒鑑評会入賞歴

- (1) 金賞受賞 平成10年、平成12年、平成19年、平成21年、平成23年
- (2) 入賞 平成11年、平成14年、平成16年、平成17年、平成18年、平成22年、平成24年、平成25年



酒造りに関して講演中の杜氏の浅黄雅彦氏



朝日川酒造(株)の正面

清酒の製造方法

清酒の製造方法を紹介します。

(1) 精米

日本酒の原料はお米です。玄米の精米作業から日本酒造りが始まります。玄米には日本酒造りには unnecessary 灰分やビタミン、たんぱく質、脂質が多く含まれているため、精米をして、これらの成分を取り除きます。

(2) 洗米

精米が終わったら、白米の表面に残っている糠や米くずを洗い流す洗米作業。なかでも大吟醸に用いるような、高度精米した米は、優しく手洗いをします。洗米時は水分も一緒に吸収するため、時間を計りながら慎重に進めます。

(3) 浸漬

次は洗米したお米に、水を吸わせる工程です。浸漬させる時間は、お米の精米歩合や、その日の天候や気温、湿度など様々な条件のよって異なるため、洗米と同じく、吟醸米などはストップウォッチを使い、秒単位で時間を計りながら作業を進めます。吸水率はとても重要です。



お米は炊くのではなく、蒸します。米を蒸していつところ。

(4) 蒸し

いよいよお米を蒸していきます。日本酒造りでは、お米を「炊く」のではなく「蒸し」ます。蒸米のキーワードは「外硬内軟^{がいこうないなん}」。お米の外側が硬く、内側が軟らかく蒸しあがったお米が良いとされています。



(5) 製麹^{せいこう}

蒸米が出来たら、次は麹造り。製麹は、完成までおよそ40時間～50時間かかります。蒸米に種麹を振りかけ、揉みながら混ぜ合わせていきます。このときのお米の温度や水分が、麹菌の増殖具合や速度を決めるため、小まめに温度や湿度をチェックし、蔵人さんたちの寝ずの作業が続きます。日本酒造りでよく使われる言葉は「一麹 二もと(酒母)、三造り」。麹造りが最も重要な工程という方もいるほど、とても大切な工程です。

画像は麹を作っているところ

(6) 酒母

「もと」とも呼ばれる酒母造りは、糖分をアルコール+炭酸ガスに変換させる微生物(酵母)を増やす工程です。文字通り、酒の母ともいうべき、重要な工程。自然界には様々な微生物がいて、清酒酵母より強い微生物もたくさんいます。そんな微生物と一緒にいると清酒酵母は生存競争に負けてしまいがちですが、他の微生物に負けない点！それは酸性に強い事。他の微生物は酸性に弱いので、酒母を酸性に保てば、酵母は他の微生物にも負けません。

(7) もろみ

もろみとは蒸したお米、米麹、水を入れて発酵中の液体を指します。ここからが日本酒造りの本番です。日本酒独自の発酵法です。一般的にはできあがった酒母に麹+蒸米+水を3回にわけて仕込みます。一度に大量の水などを加えると酵母の密度が低くなり、酸度も低くなって雑菌が入りやすくなるため少しずつ仕込んでいきます。

(8) 発酵

発酵中のもろみは、「ぶつぶつ」と音を立てながら泡を出し、約2週間～1ヶ月かけて、ゆっくりと発酵していきます。これを搾れば日本酒の出来上がりです。



(9) 上槽^{じょうそう}

ようやく発酵が終わったもろみを、酒と酒粕にわけるため搾っていきます。一般的には機械で搾りますが、目の粗い布製の袋にもろみを入れてぶら下げ、自然に滴り落ちる雫を集める袋吊りなどもあります。これでようやく「清酒」の完成です。

酒税法により「清酒」は必ず濾す工程が義務付けられています。もろみを濾さないで米粒が残って白く濁ったお酒は「その他の醸造酒」と表記されます。どぶろくはこれに当たります。

寒さの中、酒造りは順調に進んでいる。手前は高泡後、奥は高泡中の酒の醪。

醸造方法の違いによる分類

普通酒、本醸造系、純米系の3つの違いを説明します。普通酒は本醸造、純米に比べ、醸造用アルコールの使用量が多く、精米歩合も高い状態で作られます。

精米歩合とは米の表面を削り取り、残った米の比重の割合です。精米歩合が低いほど芯の純粋な部分が得られ、少量になるため、その分コストも高くなります。歩合で呼び名が変わります。

醸造アルコールを加えるか加えないかで、本醸造タイプと純米タイプとに分けられます。醸造アルコールの添加というと、マイナスイメージを持つ向きもありますが、必ずしもそうではありません。使用限度はきびしく設定され、酒質を大変重視したものとなります。

普通酒 原料:米・米麹・醸造アルコール 本醸造、純米に比べ、アルコール使用量が多く、 精米歩合も高いものが多い		
本醸造系 原料:米・米麹・ 醸造アルコール	精米 (%)	純米系 原料:米・米麹
本醸造	70以下	純米酒
特別醸造	70以下	特別純米酒
吟醸造	60以下	純米吟醸造
大吟醸造	50以下	純米大吟醸造



講師の浅黄雅彦氏

【講師略歴】

浅黄 雅彦氏
昭和54年、芝浦工業大学、工業化学科卒業
卒業後、東京の酒の間屋
昭和55年、国税庁醸造試験所研修生(2年間)
昭和57年、朝日川酒造(株)に入社、
杜氏・常務取締役(現)

鋼構造物の溶接

講師 ^{なつめ} 夏目 ^{みつひろ} 光尋

(元横河橋梁、昭和34年機械工学科)

講師の夏目氏は、横河ブリッジに勤務し、主として溶接の研究に従事し、溶接に関する研究では第一人者での日本橋梁建設協会現場溶接部会長、鉄骨建設業協会技術部会長などを歴任し、芝浦工業大学の非常勤講師を長年務めました。現在も日本溶接協会の技術アドバイザーの委嘱を受け、ご活躍です。

横河での弓削先生の業績、世界一の鉄塔

溶接の話に入る前に、機械工学科の教授をされた弓削政隆先生の横河での業績についてお話しさせてください。先生の講義を聞かれた方はよくご存知でしょう。先生は、昭和12年、川口に建てられたNHKの大アンテナ（当時世界一の313m）を設計されました。私は、その計算書を会社で見ました。鉄塔にかかる風圧の計算で埋め尽くされており、圧倒されました。

それから30数年後、日本は対馬にオメガ鉄塔を建てることになり、先生にお呼びがかけられました。オメガとは、世界で8基のアンテナを建て、地球上の船舶の位置を知るナビゲーションです。高さ445mの支線式鉄塔の建設は弓削先生の指導で建設されました（写真1）。大学紛争で先生が工学研究所に移られた頃でした。



夏目氏が溶接技術に関する体系的な話を聞いた

溶接事始め

私はドイツに出張した際、ミュンヘンの博物館で最古のものと思われる溶接機を見ました。2本のカーボン電極の間でアークを発生させ、その熱で鉄を溶かし、そこに溶接棒を差し込み溶接します。

この装置では鋳物の巣などを補修するなどに用いられたようです。それから、電極を金属棒にする方法があみだされました。しかし溶融している金属に窒素や酸素が混入し、気泡だらけの溶接でした。その後、金属電極に被覆剤を塗布した被覆溶接が発明されました。（1907年）。この被覆剤の燃焼ガスが溶融している金属を覆うことで、窒素や酸素の侵入を防ぎ、溶接の品質を高めることに成功しました。

溶接の構造物への適用

日本では、三菱造船が早くから溶接機を導入しており、建築方面でも利用されました。丸ビル（旧ビル）は建築中に関東地震に遭い、鉄骨の一部が破損しましたが、三菱が溶接で補修しています。横河では、昭和3年（1928年）にアメリカGE社から溶接機（写真2）を購入し、溶接研究を始めています。そして溶接で試験桁と、比較のためのリベット桁を作り強度試験をしました。「溶接桁は、リベット製に勝るとも劣らなかった」（横河橋梁社史）の結果は、当時の関係者に大きく注目されました。

早速、陸軍からは、軍用橋（可搬渡河橋）を溶接で作ることを命じられました。溶接製はリベット製より軽く、工兵隊が戦地で担い運び、架けるのに適していました。その試作品は昭和5年、天覧（昭和天皇）に供されました。

また鉄道省からは、鉄道橋の補強の注文が参りました（写真3）。当時日本は輸送力の増強するため、鉄道橋の補強を必要としていました。リベットで補強すると何日も列車を止めなければなりませんが、溶接な



写真1 オメガナビゲーションのアンテナ鉄塔（1974年～2000年）。写真はセルフクライミングクレーンによる解体



写真2 米GE社の直流溶接機
(右の交流モーターで左の直流発電機を回す)

ら、それが避けられます。橋梁工学の田中豊東大教授（当時鉄道省）はこの溶接に立ち会われ、「失敗したら、中間に支柱をたてよう」と考えていたが、安心したといわれたと、当時の横河の社員が書き残しています。

戦前は、いくつかの新しい橋や建物にも溶接が適用されました。珍しい例では、終戦後、GHQに接収された第一生命ビル（昭和10年、現ビルは近年建て替えられた）は、皇居の前であり、リベット騒音の失礼をおそれ、リーマーボルトで施工された（孔とボルト径の隙間1mm）が、そのナット緩み止めに溶接が用いられました。私はこの工場の記録映画（清水建設所蔵）で、溶接のシーンを見たことがあります。

無声建築

建築鉄骨では長年リベット打ちの騒音に悩まされてきました。溶接により騒音から解放された関係者は、溶接建築を「無声建築」と呼び喜んだようです。私が入社した当時もまだ半数はリベット構造でしたので、私はリベットの耐えがたい騒音を体験しております。話は前後しますが、戦前は市街地建築法で、溶接は認められていませんでした。ただし、病院やデパートの増築には例外的に溶接が許されました。溶接が建築で正式に認められたのは戦後昭和25年（1950）制定の建築基準法からです。

溶接構造の破壊

粘り強い鋼も、条件によりガラスのように脆性的に破壊することがあります。ヨーロッパでは戦前、溶接橋梁が突然破壊し、また、戦時中、アメリカで大量に溶接で建造された戦時標準船リバティ号の数隻が破断して、溶接構造物の脆さを思い知らされました。そのような経緯を知っておられる橋梁工学の先生が、戦後でも「あんな怖いもの使えない」と溶接に反対されたという話もきいております。

このような溶接の脆さを払しょくするため、日本は鋼材や溶接部の靱性向上に努力してまいりました。また、破壊の起点となる溶接部の欠陥、特に溶接割れに注目し、多くの割れ防止の研究が行われてきました。

高能率な自動溶接

先に述べましたアメリカの戦時標準船は、破壊した数隻を別にすれば、「称賛された船」でありました。当時のハイテク技術の溶接、しかも全溶接の船です。すでにアメリカでは自動溶接機（サブマージアーク溶接）が開発されており、4,000隻をこえる船を日本との大戦中、短期間で建造することに成功しました。

「アメリカの溶接技術は素晴らしい」と大統領はアメリカの溶接学会をたたえたとの記事をウエルディングジャーナル誌で読みました。日本は自動化が遅れ、サブマージアーク溶接は戦後昭和27年（1952）頃、輸入されました。能率は手溶接の10倍に近い。散布したフラックスの下でアークを出す方法であり、コイル状の溶接ワイヤを自動送給して溶接します。アークが潜っていて強い光が見えないので、作業者は遮光する必要がありません（写真4）



写真3 日本で最初の鉄道橋の溶接補強（奥羽線 檜山川橋梁、昭和6年、溶接補強は終戦までに1200連で行われた）



写真4 サブマージアーク溶接による橋梁の鋼床版の溶接

橋梁の大型化に寄与した高張力鋼

普通の構造用鋼の強度は断面1mm平方当たり400ニュートンです。戦後昭和30年代に490、580の鋼材が開発され、橋梁の大型化に寄与しました（名神高速道路の橋梁など）。その後780の鋼材も開発された大型橋梁、大阪の港大橋に使われました（写真5）。

東京湾横断道路の橋梁

写真6は大型橋梁のフローティングクレーンによる架設の状況です。下の橋脚はコンクリート製でなく、鋼製です。海水中に建てられています、そのスプラッシュゾーンはチタン板を溶接して防錆されています。



写真5 高張力鋼が大量に使用された大阪・港大橋



写真6 アクアライン橋梁（フローティングクレーン架設）



講師の夏目光尋氏

【講師略歴】

夏目 光尋氏・工学博士

1959年機械工学科卒、同年横河ブリッジ勤務、主として溶接研究に従事してきた。

芝浦工業大学非常勤講師。横河工事(株)に転属し、同社理事。日本橋梁建設協会現場溶接部会長、鉄骨建設業協会技術部会長、日本溶接協会、軽金属溶接協会、建築学会、ISO溶接検定規格の国際会議委員。日本溶接協会技術アドバイザー。（現在）

「校友会ホームページの利用推進」について

校友の皆さん、あなたは校友会ホームページをご覧になった事がありますか？

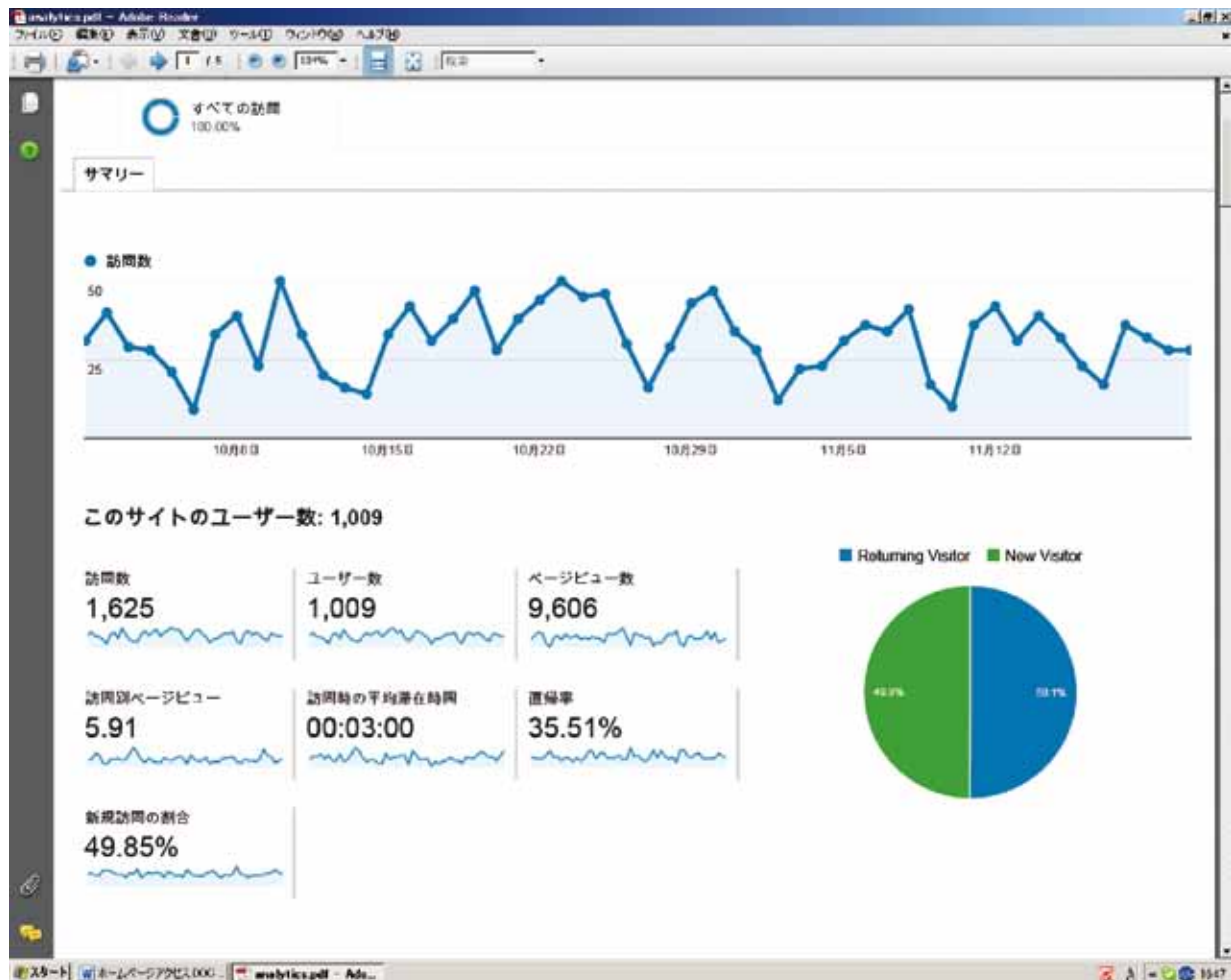
下記の表はホームページのアクセス解析資料です。

10月1日から11月21日のサイト訪問者は1,625件。内リピーターを絞り込むと1,009件のアクセスとなっております。昨年7月にリニューアルした当時は、日々のアクセスが平均で100件以上ありましたが、ここに来て随分少なくなってきております。単純にページをアクセスされた方の平均は6ページでサイト滞在時間は3分となっております。円グラフが示すように期間新規アクセス者が全体の半数を占めている事は、裏を返せばリピーター率が低い事を意味しておりアクセス数を上げていくには魅力を持った情報発信が必要と思っております。

10月に箱根駅伝予選会がありました、「駅伝予選会」をキーワードとしてのアクセスも多く大学の活動・活躍とマッチした情報を発信する事でアクセス数も増加するかと考えております。又、支部の中には「支部紹介」のページを入力して頂けて無い支部や支部情報など一度も発信されて無い支部もあり折角の情報ページが有効活用していない事も事実です。

校友の皆さんが、ホームページを通じて情報交換や利用拡大が図れるよう今後も取り組んで参りますのでよろしくお願いします。

総務委員会



校友会と全国総会

～校友会会員と大学・後援会・学生参加のオール芝浦懇親会～

この度、校友会では平成25年度卒業の新入会員の皆様方を心から歓迎し、お手許に“校友会だより”を配布することに致しました。本会を理解して戴き、諸事業への協力を是非お願いします。今年の全国総会は6月14日に「ホテルイースト21東京」で開催され、その後の懇親会をご招待です。どうぞ参加下さい。新入会員によって清新な空気と活力が注がれますことは、大変心強いことです。仕事上での活用や安らぎの集いの場としても大いに利用して下さい。諸先輩方は、その支援を惜しむことはありません。

新入会員の皆さんは学習の時代が終わり、希望と緊張感を胸に、いよいよ実社会へと踏み出すこととなります。大学生生活は自分主体に自由に過ごせた貴重な一時期であり、自己形成に大きな影響力があったかと思えます。これからは長い社会人生活が始まり、大勢の中の一員として過すこととなります。人と人との関係性を大切に、自らが責任を持って行動しなければなりません。自らの考えを定め、はっきりとした方針を立て、己を信じて行動するのみです。社会人としての活躍をおおいに期待し、納得できる人生を過ごされることを心から祈念いたします。

校友会は、芝浦工業大学の前身である東京高等工商学校が大森に開校された翌年の1928年（昭和3）11月4日に“東京高等工商学校校友会”として発足したのが始まりです。現在、会員数は10数万人を越え、産業界はじめ経済界、教育界、官庁、スポーツ界、文壇など様々な分野で活躍し高い評価を受けています。本会は、機関誌の発行・会員名簿の発行・校友会館の設立の3大事業に加え、母校と在学生に対する支援、および校友のための実学サロンの開講、資格修得講座、芝浦技術士会、ホームカミング・デーなどの支援をしています。



全国総会 '11 豊洲校舎大教室

全国総会は、このような様々な事業展開と、それに伴う予算・決算を全会員に開示し、会員の意見を統括する場です。すべてに優先される行事で、年1回以上の開催が義務づけられています。3.11の大震災による自粛ムードのなか、全国総会の開催は危ぶまれましたが、豊洲校舎6Fの大教室を借用し、ホテルでの開催にみる華やかさが無い反面、審議に相応しい雰囲気のもとに無事行われました。

機関紙・会誌の発行は、校友会発足の翌月の12月3日に創刊号・校友会雑誌として始まりました。その後、校友会は母校に関する情報を卒業生に向けて発信する団体から、会則にうたう目的を達成するための事業団体へと様相が変わり、そのためか会誌発行が滞ったようです。事業運営資金の大半は個人の負担によるところが大きく、やがて慢性的な資金不足に悩まされてきました。しかし、平成6年6月1日校友会と大学との間で校友会費の徴収を大学が行う代理徴収制度の契約が成立し、平



「校友会雑誌」創刊号
(1928年12月発行)

成7年2月より施行されるようになりました。これを機に翌年の平成8年より会誌名称を“校友会本部だより”として復刊する運びとなりました。

本部だよりは、会員の大多数が全国各地に勤務・在住していることを踏まえ、各地域間の交流や親睦、社会活動の拡がりに寄与することを目的と致しました。支部の数が当初10地域にも満たなかったが、10年経た平成18年には鳥取地域支部を最終に都道府県全域に設置されました。現在、海外に2地域支部、全国で81支部を擁しています。ここにその役割を果たしました。なお一層の発展を願い、名称を“校友会だより”と改め、配布対象を広げることになりました。

会員名簿は、母校の創立80周年記念を期に、個人情報保護法が施行されて間もない頃で、編纂にかなりの制約を強いられました。平成18年6月10日、発刊に到りました。全国型大学に相応しく地域別に構成され1,700頁にも及ぶものです。各県別、郵便番号別に編集され、地域における会員相互の連携と連帯感の強化をもたらし、仕事上の新たな展開や同好の活動を推進することにも役立っています。新入会員の名簿は、卒業年度別に追補版として例年発行しています。

校友会固有の会館設立は、都心にあっては容易ではなく、長い間校友会本部は、個人のご好意により、会員が所有する建物に置かれていました。その後、大学から徒歩数分のところの芝浦学生寮の跡地に大学が建てた機械実習棟の2階に移り、数年を経てやはり大学から近距離の八千代橋ビル5Fに拠点を移しました。平成21年2月に開設した新装芝浦校舎7階の一部を、恒久的に借り受けることが叶い、本部事務局、校友倶楽部が

設けられました。日常業務、会員相互の交流と懇談・会議・集会などに活用され、一段と活気付いています。

全国総会の終了後、校友会会員と大学側から法人・教学の代表・往年の教員、後援会役員、諸部活動の在学生たちが参加する懇親会が盛大に行われています。経済の膨張期は、人気芸能人を招き華やかさもあってか、参加者数が大変多く、大学広報誌 BULLETIN 3-4 には、会員および家族も合わせ1600人が集まったと記されています。その後は、在学生の諸活動の成果報告や学生による演奏、会員による演奏・演舞など、関



会員名簿および追補版



全国総会 '91 京王プラザ
大学広報誌【BULLETIN3-4】

係者が主体のオール芝浦色の濃い懇親会へと変わり今日に至っています。

開催年	総会参加者	懇親会	備考
平成17年	490名		大学創立70周年
18年	506		豊洲キャンパス開設 都道府県全域支部設置完了
19年	564		
20年	424		
21年	382		新芝浦キャンパス開設 校友会本部7階に移設
22年	404		
23年	270		3.11東日本大震災
24年	460		
25年	460		

大学は、多くの受験生を継続的に確保できてこそ世の評価が高まり存在意義をもちます。その支援には、私学にとって最大の財産である卒業生の社会における日々の活躍に優るものはありません。例年、全国総会・懇親会は6月第2土曜日に開催しています。同窓の親睦と、人と人とのつながりを深め、更なるご活躍へ展開する機会としてご参加頂き、是非校友会活動を盛り立てて下さいますようお願い致します。

全国総会・懇親会参加者数



校友会本部と倶楽部、新芝浦校舎 7F

平成26年も全国総会を開催致します。卒業生はどなたでもご参加いただけます。新卒業生は、会費無料にてご招待しております。皆様、ふるってご参加ください。

「出会いがある……校友会
さらに広げよう……同窓の輪」

とき

平成26年 **6月14日** (土)
午後**1時30分**より『**全国総会**』
午後**3時00分**より『**懇親会**』

会場

ホテルイースト21 東京(イースト21 ホール)



平成26年度

校友会全国総会ご案内

会費:8,000円

芝浦工業大学校友会全国総会・懇親会実行委員会

総務広報委員会

総務委員会の担う役割には、以下のようなものがあります。

- 校友会に関する適切な広報により、校友会活動が円滑に行えるようにします。
- 実学サロンを開催する。
- 後援会との交流を図り、父母懇談会の充実を図ります。
- ホームカミング・デーの開催を支援します。
- 各種催事、募金、卒業生関連企業の紹介、等の事業を推進します。

現在の体制による運営は平成 26 年 6 月で終了しますが、任期 3 年間近の状態で、実行された事業は以下の通りです。

- 広報活動の展開をめざしホームページの充実を図りました。
 - ・内容を大幅に充実させ、読みやすく魅力あるものにしました。それに伴い絶えず最新情報をアップし、斬新制を画面に提供しています。
 - ・今回発行の「校友会だより」も紙面を一新し、校友はもとより新しい校友にも、喜ばれるような構成としました。
- 実学講座は東京総支部の主催で開催することとなり、講座よりフランクな形態の「実学サロン」を開催しました。年 5～6 回の開催で、終了後の講師との懇談は有意義なものとして、校友の方々から高評価を得ています。
- 後援会とは交流会、懇親会等、数多くの機会を設け、有意義な会合を重ねてきました。教職員と学生・父母とが集まる父母懇談会は、全国的に応援しました。その際には、新卒者の就職者を積極的に招集し、タイムリーな就職情報を提供しています。
- ホームカミング・デーには、資金的な支援を含め、多くの校友に参加を働きかけています。
- その他、就職未定者の採用を、積極的に企業に働きかけも行っております。インターンシップについて、主催者であるキャリアサポートに紹介をしております。



委員長：泉澤 定雄 (S46 建築卒)

運営方針：

企業においても総務は潤滑油であり、直近の具体的な方針を策定する部署です。総務委員会としては、校友会が適切に運営されるように、尽力してきたつもりでしたが、評価は校友の皆様任せます。

次期総務委員の方々へ：

平凡な作業を確実に行き、校友会活動の進展に助力して欲しい。

総務委員会のメンバー（常任幹事）

奥村 克夫 (S39 電気)
 小川 誠 (S41 機械Ⅱ)
 加藤 浩 (S44 機械)
 小平 和一郎 (S45 電子)
 赤井 和憲 (S47 土木)
 野口 博文 (S47 土木)
 田中 一男 (S55 建築)
 中根 眞行 (S55 工経)
 刈谷 義治 (H02 金属)
 柏倉 隆行 (H12 機制)

財務委員会

財務委員会の担う役割には、以下のようなものがあります。

- 各委員会からの予算要求に対し、審査・組換えを行い 校友会の予算書を作成します。
- 予算書、決算書は、全国総会に於いて会員の皆様に説明をし、承認を得て会費執行を行います。
- 承認された予算通りに事業が執行されているか常に確認を行っています。
- 大学からの緊急支援要求など特別な支出を必要とする場合は、執行役員会、常任幹事会の議決を経て、補正予算を組み執行する事もあります。

財務委員会は、他の委員会と違い事業の立案、執行を主とする委員会ではありません。ここでは校友会の財務の基本的考え方について述べさせていただきます。また、現在の体制による運営は平成 26 年 6 月で終了しますが、次期財務委員に於いても基本的な考え方については同様であると考えております。

■ 財務の基本的考え方

収入は平成 7 年入学以降の校友の卒業年にお支払い頂いている終身会費とそれ以前に入学した校友の終身会費及び年会費で成り立っています。支出は全国総会関係費用等の事業費と会務運営費等の管理費を合わせた事業活動費と将来の大型支出に備えた基本財産預入から成り立っています。近年は約 8 千万円の収入に対して約 7 千万円の事業活動費と約 1 千万円の基本財産預入の構成となっています。皆様からの会費は、適正、健全に執行させて頂くことを大原則に、ここ何年も決算の金額と予算の金額にほとんど相違がなく推移しており、毎年総会に於いて承認頂いた予算はその計画通りに決算されています。

委員長：加藤 善次郎

経 歴：

昭和 55 年機械工学科卒業

現在(株)日本環境設計代表取締役社長

校友会活動：

平成 12 年 常任幹事に就任

平成 15 年より常任幹事会議長を 2 期 5 年務める

平成 15 年より選挙管理委員を 2 期 5 年務める

平成 20 年より校友会総会副実行委員長を 3 年務める

平成 20 年より校友会副会長（財務委員長）を 1 期 3 年務め現在 2 期目を務める

財務委員会のメンバー（常任幹事）

雲 然 國 幸 (S41・機Ⅱ)

森 川 理 (S47・電子)

安 齋 正 博 (S55・機Ⅱ)

寺 尾 謙 (H 13・電気)

事業委員会

事業委員会の行う活動には以下のような事業があります。

- 全国総会・懇親会の開催（毎年6月）を企画・運営します。
- 新年賀詞交歓会の開催（毎年1月）を企画・運営します。
- 収益事業の企画運営（資格取得講座の管理運営、新規収益事業の企画等）を推進します。
- 技術士会、MOT会他、産学連携による協力事業の検討及び企画を図ります。
- 大学の事業に対する協力支援（チャレンジSIT90作戦への協力）を行います。
- 校友倶楽部の利用企画（予約システムの構築等）並びに管理運営を行います。

校友会の一層の活性化をめざし各種事業を積極的に推進しました。具体的な活動内容及び実績は以下の通りです。

- 校友会最大のイベント「全国総会・懇親会」は年々拡充しております。参加者は平成24年度500人、平成25年度700人となり、次年度は参加目標の1,000人を目指します。（平成26年度全国総会・懇親会：6月14日（土）PM1:30～ホテルイースト21東京 於）昨年は懇親会のアトラクションに大学祭で活躍されたメンバーにご出演頂き、大変好評でありました。
- 毎年1月に開催される新年賀詞交歓会におきまして、今年は上場企業役員を勤める卒業生を御招待し、例年になく賑やかな交歓会となりました。
- 収益事業につきましては、現在日建学院と提携し資格取得講座への紹介事業を行っておりますが、新たに総合資格学院と提携交渉中であり、建築・土木以外にも宅建・電気電子・機械関連の講座についても検討して参ります。
- MOT卒業メンバーとの交流、生涯学習センターで開催された技術士会の公開講座への協力等を行いました。
- 校友倶楽部のホームページ上での予約システムの構築を行い、誰でも利用しやすい環境が整う予定です。また、現在校友会倶楽部の入会促進を行っております。会員は優待特典の他、会員証を発行し倶楽部内には会員名を掲示致しますので、是非入会して会員相互の交流と親睦を深めましょう。



委員長：清水 修司（S44 建築卒）

「校友会員相互の交流と親睦」という、本学校友会の持つ目的を実現するのが事業委員会です。様々なネットワークの構築を企画運営することで在校生と卒業生とが交流を図り、より一層の母校発展に繋がればと考えております。

事業委員会のメンバー（常任幹事）

齋藤 教 男（S49 建築卒）
 水口 和 幸（S49 建築卒）
 元井 彰（S55 土木卒）
 渡辺 通 宏（S60 機械卒）
 佐々木 克 則（S60 電気卒）
 新井 剛（H7 金属卒）
 野元 明 俊（H13 電気卒）
 西河 洋 一（H22 MOT卒）

組織委員会

組織委員会の担う役割は、下記の通りです。

- 校友会組織を強化し、拡大、活性化する。
- 卒業生名簿の編纂を行う。
- 校友会推薦入学卒の提案を行う。
- 後援会支部と校友会地域支部の交流を図る。

現在の体制による活動内容は、以下の通りです（一部進行中のものがあります）。

- 校友会組織の強化・拡大について
 - 1) 新規支部（海外支部を含め、学科、クラブ、研究室他）の開拓を推進。
72支部（H23-7-1）⇒ 81支部（H25-12-1 現在）へと拡大しました。
 - 2) 支部総会へ積極的に参加し、校友会執行部の方針説明・情報交換をすると共に、今後の活動へ反映しています。→地域支部総会への参加をしやすいするため、分会制度を設立し、広域支部への参画意識を高めています。（広島・鳥取・長野・福島・神奈川等）
 - 3) 既存支部の活性化・若返り支援につきましては、各支部のホームページ立上げを依頼すると共に、校友会のホームページとリンクするように進めています。
 - 4) 全国総会開催実行委員・幹事・常任幹事に女性・若い方を発掘し、将来の役員育成を進めています。
- 卒業生名簿は毎年3月に卒業した人を対象に追跡調査を行い、秋には発行しています。10年毎に卒業生名簿を編纂し発行します。
- 校友会では地域の優秀な高校生を、校友会推薦入学卒として大学へ提案を継続しています。
- 後援会との交流を地域支部に展開を進めると共に、地域支部に於いては、就職求人情報の提供を依頼しています。

委員長：郡司 卓臣（S43 機械卒）

運営方針：

組織委員会の主目的である組織の強化については、新規支部の開拓であり、支部総会への参加人数の増員を図ることと、考えています。将来100支部へと拡大していくことを目標と、しています。

次期組織委員の方々へ：

学科及び企業支部等への新規支部の開拓を継続していただくと共に、既存支部への更なる活性化を推進していただきたいと思ひます。

組織委員会のメンバー（常任幹事）

田口 継道（S39・建築）
滝沢 厚征（S39・建築）
岡本 泰明（S41・機械）
吉野 巖（S43・機械）
渡辺 碩（S45・建築）
内田 武男（S46・土木）
長井 義明（S47・建築）
林田 和雄（S52・建築）
文倉 辰夫（S55・電気）
吉本 竜也（H3・建築）
野溝 忠雄（S35・電気）

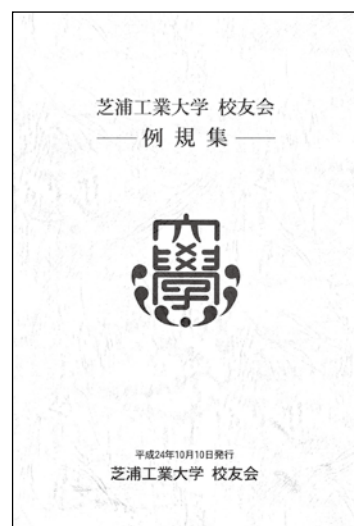
例規委員会

例規委員会の担う役割には、以下のようなものがあります。

- 校友会の運営・活動の支えとして、校友会の発展に寄与するための例規の制定・改定・校正を行う役割を担います。
- 校友会の例規 ①会則、②規則、③内規の3種を対象とします。

現在の体制による運営は平成26年6月で終了しますが、任期3年間近の状態で、実行された事業は以下の通りです。

- 平成24年10月10日 例規集第2刊を発刊
- 平成25年11月1日 出張規則を改定
- 平成25年12月10日 海外出張旅費規定を制定



委員長：神野 兼次 (S49 建築工卒)

運営方針：

校友会活動の基本は例規にありと言っても過言ではありません。平成15年に例規委員会が発足し、翌平成16年に例規集第1刊を発刊して以来、諸先輩に御尽力頂き発展して来ました。常に時代を見据え、校友会の運営・活動の支えとして、校友会の発展に寄与するための例規の制定・改定・校正を行う役割を担います。

例規委員会のメンバー（常任幹事）

前 野 和 博	(S46 工経)
今 村 均	(S40 機械)
竹 村 孝	(S41 電気)
木名瀬 英 彰	(S54 土木)
釜 井 重 一	(S55 建築)
青 木 豊 治	(S57 機械)
山 口 正 樹	(H5 電子)

特別委員会

【委員会の目標、役割等】

特別委員会は、芝浦工業大学学生の正課外活動の活性化および実績の向上を目指して、まずは陸上競技部・駅伝ブロックを箱根駅伝予選会に、さらには本選に出場できることを願い、それを全面的に支援するために設置された委員会です。

多くの正課外活動に対して支援することが、本来の校友会が果たす大きな役割でもあります。かつての芝浦工大の活躍までには至らないとしても一つ一つを特別委員会が軸となることによって、校友の支援の輪をより拡げていくのが役割であると思っています。

【今までの活動内容・実績】

今からおよそ11年前の平成15年に、執行役員会で「テレビ放映されるような運動部の推進を図りたい」との提案がなされ、様々な委員会で検討された後に、平成17年4月には、事業委員会に「箱根駅伝支援準備室」が開設されました。その後、委員会として独立することになり、平成17年7月に校友会会則第63条「委員会の設置」に基づき、執行役員会において特別委員会が立ち上げられました。それからは、まず予選会に出場することを目標として、監督の招へい、奨学金給付制度の制定と運用、理事長・学長への要望書の提出等を経て、予選会出場への準備等が進められました。

その後、数年間は陸上部員数人によって活動が続けられましたが、平成24年度になって学生諸君の自主的・積極的な働き掛けもあって部員数も25名に急増し、さらに熱心で弛まない練習と合宿経験を経て、予選会出場のために必要な『5000mを16分30秒以内の選手が10名以上』の条件をクリアできました。その年の予選会に芝浦工大として初めて出場し、参加大学45校のうち40位と健闘したことは、長年の大きな目標を達成することができ、多くの芝浦工業大学教職員および校友会諸氏と感激・感動を得ることができました。さらに、翌年の平成25年1月20日に行われた埼玉駅伝に初出場し、一般の部で11位という成果を残したことは輝かしい歴史の1ページを飾りました。平成25年度に入ってから、チーム一丸となって練習・合宿等に励み、平成25年10月20日に開催された第90回箱根駅伝予選会に出場し、9選手が自己新、総合タイムが前年と比較して約34分短縮し、総合順位が31位と大きく飛躍しました。当面の予定としては、平成26年2月2日(日)に行われる埼玉駅伝に出場予定であり、期待感を持って校友会および特別委員会で応援・支援ができることを願っています。



委員長：枝広 英俊 (S46 建築卒)

正課外活動が盛んで、かつそれなりの成果を残している団体または個人に対して、校友会および特別委員会が支援していくことは、現役の学生諸君に対して、また卒業生に対しても元気を与えることができると信じています。校友会副会長および特別委員長に就任して2年半たらずですが、校友諸氏の理解と支援を宜しくお願いします。

S46：建築学科卒業

H14～現在：建築学科 教授

H23～現在：校友会副会長、特別委員長

特別委員会のメンバー（常任幹事）

角野 和明 (S46・建築)

辻村 建 (S46・建築)

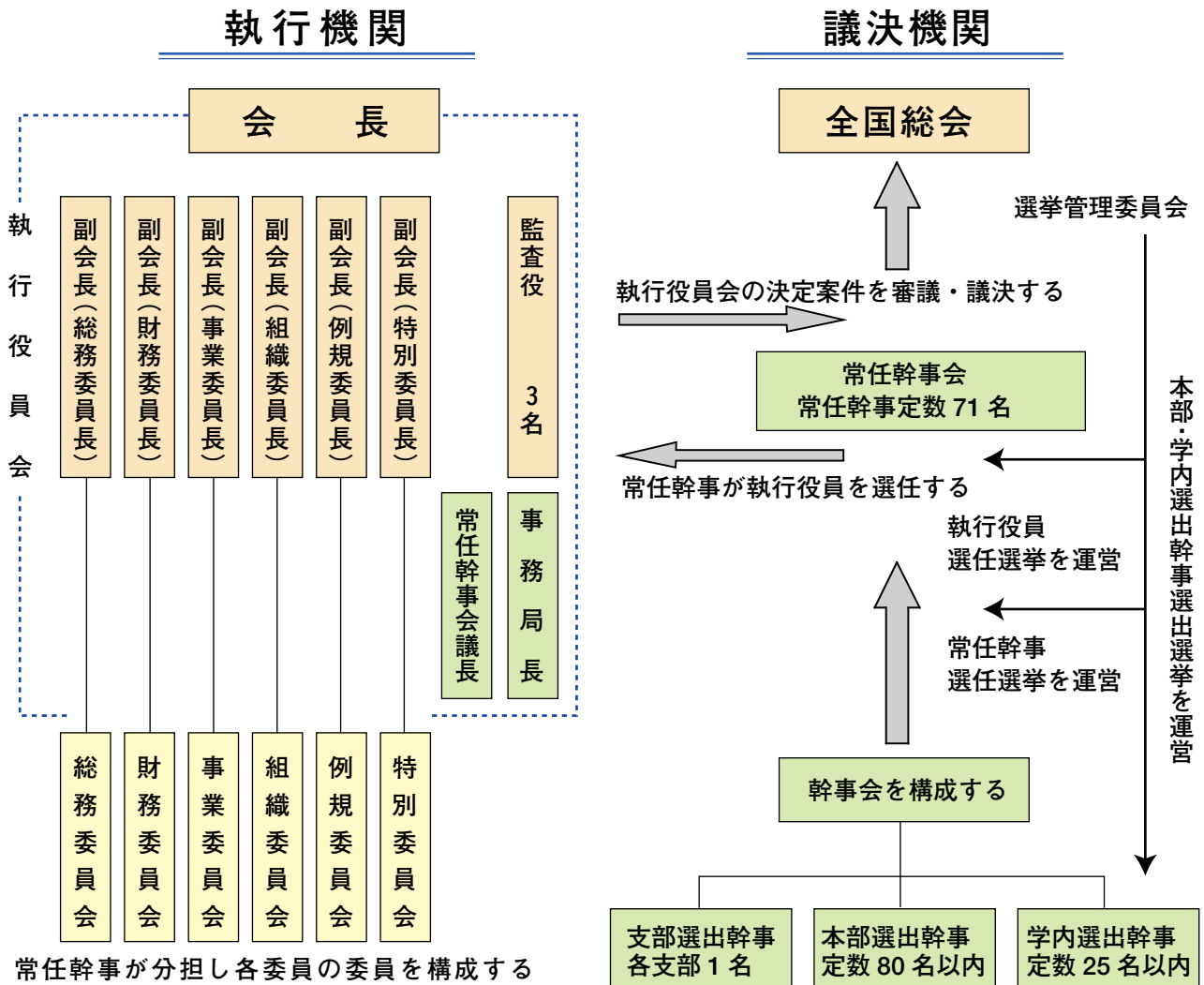
菅 和利 (S45・土木)

長澤 栄太郎 (S46・建築)

井出 恵尉 (S46・工経)

福田 栄寿 (H元・機械Ⅱ)

校友会組織図



全国総会

1. 予算・決算、事業計画、事業報告など重要案件の審議・議決
2. 幹事、選挙管理委員の選任

常任幹事

1. 会長、副会長、監査役を選任する。
2. 会則、諸規則の制定、改廃について審議、議決する。
3. 予算・決算および事業計画・事業報告など本会運営に関する重要な職務を担当する。
4. 任期は3年。
5. 常任幹事会は通例年4回開催される。

幹事

1. 常任幹事選任の議決権を有する。
2. 大学評議員候補者の選出議決権を有する
3. 幹事会を構成する
4. 幹事会は通例一回開催される。
5. 任期は3年

支部活動報告



北海道支部

支部長名 山口 富雄
卒業年度 昭和40年
卒業学科 建築学科

「結（ユウ）の心」

初代支部長羽磨欽一が昭和41年に創立して7代目の支部長として就任いたしました山口富雄です。全国では宮城支部、高知支部に続き設立された北海道支部は来年50周年を迎えようとしております。

私は70歳を過ぎ「結（ユウ）の心」の大切さを感じさせられます。一人ひとりそれぞれの人生観や使命感が異なります。しかし、生きていく上で、誰にでも共通すること、それは「結」でしょう。

産声を上げた時、親兄弟の結、成長して学校の友、先輩、後輩に会い、又、競い合い、支え合う仲間や恩師との結、人生を語り合ったり、励まし合ったり、友情を確かめ合ったり、恋をする相手との結でもあります。長じて、社会人となって苦悩を分かち合い、達成感を共有する人と結、やがてその相手が人生の伴侶となる場合もあります。「結」は性別や年齢、職業、貧富等、あらゆる境遇の違いを超えて、人がこの世で等しく、行う行為であります。又、会った相手から学習し、自ら成長できるのです。そのために大切なのは、人生で「いくつの感動的な出会いを得られるか」、そして「相手に感動を与えられるか」ということです。相手の立場を慮（おもんぱか）ることが、感情を持つ人間として最も必要なことでもあります。

多くの結の絆で、どんな人と、何を学べるか、感動的な出会いがいくつあるのか、どのようにして相手に尽くせるのか、「結」が私の楽しみであります。



青森支部

支部長名 下山 勝弘
 卒業年度 昭和41年
 卒業学科 土木工学科

わが青森支部は昭和53年に発足し、平成24年10月に創立35年の節目としての記念式典および祝賀会を行いました。支部会員は県内出身者および県外から来られた方々等で組織運営され、校友会「会則第3条」の主旨に沿い支部・校友会・母校の発展に各々ご尽力いただいております。

支部のこれまでの活動内容であります。支部発足（昭和53年）当時は同窓会として、懇親会だけでなくメリットもありました。卒業生に誰がいて、何処で活躍しているのか等の情報が、今日の組織作りの礎になったと考えております。

青森支部は昭和57年に校友会に加入し、本格的に他支部との交流も進み、平成3年には函館市と青森市が津軽海峡を挟むツインシティを結び、海峡フォーラムが開始されましたので、それに便乗した形で北海道・函館分会との青函交流が始まっております。この交流は既に23年にもなり、今後さらなる発展に繋がるものと期待しております。

また、大学創立70周年記念事業の一環として、平成9年7月には青森会場に於いて「全国縦断ロボットセミナー」が3日間実施され、小・中学校のコンクール県大会が行われました。さらには、東北六県各支部との交流を図るために努めております。

今後地方支部の発展には若年層の方々の参加が重要であり、若い力が地方支部を引っ張っていくものと考えます。その為には古参の方々は勿論、若い卒業生の参加を増やすことは不可欠であります。これには、会員の協力、校友会のバックアップが重要と考えますので、幅広い親交が必要といえます。終わりに当たって、今後の地方会員の参加増大と支部・校友会の更なる発展を祈念し、青森支部の紹介を終わります。ありがとうございました。



芝浦工業大学校友会青森支部 創立35年祝賀会 アラスカ会館 平成24年10月20日



平成25年 青森支部総会

「建設のご相談は当社へ！」

平成10年 建築工学科卒

建築設計・監理 一級建築士事務所

株式会社 **平塚建築設計事務所**

代表取締役
 構造設計一級建築士 **平塚 勝 Masaru Hiratsuka**
 A F P ・住宅 L A

(日建学院青森校:一級建築士総合設計講師)

本 社 〒038-0011 TEL 017-781-2821

青森県青森市篠田三丁目23番8号 FAX 017-781-2823

HIRATSUKA ARCHITECTS & ENGINEERS OFFICE INC.

E-mail : rinn@ops.dti.ne.jp / 携帯 090-2321-8994

岩手支部



支部長名 遠藤 龍一
卒業年度 昭和 50 年
卒業学科 建築工学科

校友会の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

岩手支部総会は、本部総会後に開催しております。

今年は平成 25 年 6 月 22 日（土）に本部監査役の大丸様、青森支部長の下山様をお迎えいたしまして開催いたしました。

例年 20 名程の参加でございましたが、各地区の行事等が重なりまして今年は 13 名の少ない参加者となりました。しかし、初参加の方もおりまして、来年以降に期待が持てる支部総会となりました。

当支部は、参加者の高齢化が進み新規参加者の勧誘に苦慮しております。

会費は当日参加者からの徴収が主でありまして、当日参加できない方で郵送で会費を納入していただいた方には近場の方は自宅まで行って資料をお渡しし、近況をお聞きし、遠方の方には郵送と電話連絡で勘弁してもらっております。

事務局というものも最近はなくなり、役員間で連絡を取りながら支部の運営を行っております。

毎年、支部総会のほかゴルフ大会、盛岡周辺の役員親睦会を年 2、3 回行っております。沿岸部や県南部に出向いての親睦を図りたいと常々考えておりますが、皆様ご存じのとおり 3. 11 の大震災で何かと多忙な方が多くしばらくは実現しそうにもありません。

又、支部設立の準備段階から長きにわたり岩手支部の大黒柱として御尽力頂いた千葉新市（建築昭和 38 年卒）大先輩を失ってしまい、今その偉大さを改めて痛感させられております。

今後は、前支部長で本部評議員の岡田稔様のお力をお借りしながら、少しずつではありますが活気ある支部になるよう、皆で頑張ってまいりたいと思っております。



千葉 新市 様

業績 岩手支部元支部長

東日本大震災のおり、大槌町のご家族を避難所まで送られその後、町に戻られ避難活動中、大津波に巻きこまれ消息不明となっております。

曲がったことが嫌いで、自分に厳しく、人にやさしい素晴らしいお人柄の方でした。お優しい笑顔が今日拝見できないことを悲しく存じます。

秋田支部



支部長名	渡邊 淳悦
卒業年度	昭和 51 年
卒業学科	建築学科

支部長を拝命してあつと云う間の1期2年でした。取り立ててお役にたてたとも思わず「これではいかん。」と、もう1期頑張る事を会員の皆様に宣言させていただきました。

一昨年から私たち秋田支部は、総会は毎年7月第一金曜日に開催する事としています。この事は、毎年決まった期日に開催する事で、各会員の皆様が時期になると「そろそろだな・・・。」と意識してもらおうと云う意味を込めています。

平成25年度の総会は、平成25年7月5日に秋田ビューホテルにおいて、学校から理事の山下修様、校友会から副会長の泉澤定雄様のご出席をいただき、支部会員25名の参加の中、盛会の中に開催する事が出来ました。

また、10月26日には、秋田カントリー倶楽部でゴルフコンペを行いました。当日は台風が過ぎ去ろうとしているときで、天候に大変気をもみましたが、8名の参加を得て無事実施できました。

芝浦工業大学はその昔体育会系の活動が活発だった記憶があります。硬式野球部は東都1部リーグでしたし、スキー部は全国クラスの成績でした。

最近の朗報と言え、一昨年箱根駅伝を目指して予選会に出ています。昨年は10番ランクアップして31位になりました。もう一踏ん張り二踏ん張り、頑張ってもらえば夢が叶う日もそう遠くは無いと期待したいと思っています。

ところで秋田に、プロバスケットbjリーグ所属のノーザン・ハピネッツと云うチームが有ることをご存知でしょうか。今シーズンは抜群の成績で連戦連勝、リーグのトップを走っています。

このチームを率いるヘッドコーチ中村和雄さんは、芝浦工業大学バスケットボール部のキャプテンだった方です。中村さんは秋田生まれで、大学(昭和40年・電気)卒業後、秋田いすゞ自動車(現在の横浜ギガスピリッツ)に入社、指導者を目指す道を歩み始めました。高校や実業団で監督を経験し、全日本女子の監督も務めました。

プロリーグが発足してからは、浜松・東三河フェニックスを優勝に導き、2011年から今のチームのヘッドコーチに就任し、現在のチーム力をどんどんランクアップさせています。

今後とも支部としては中村さんのご活躍を見守り、応援していきますが、全国の支部の皆様もご注目下さい。

◆秋田ノーザンハピネッツ
公式ウェブサイト

<http://www.happinets.net/>



総会

宮城支部

● 支部役員紹介（平成 25 年度）

支部長名	秋山 輝正
卒業年度	昭和 37 年
卒業学科	土木学科

副支部長	鎌田 正夫(昭和 46 年 建築工卒)
事務局長	佐藤 靖記(平成元年 機械Ⅱ卒)
会計	上野 真(昭和 49 年 土木卒)
幹事	8 名

● 支部会員数

192 名

● 年間行事紹介

宮城支部定時総会（6 月頃）、宮城支部新春交流会（2 月頃）、支部幹事会（年 3～4 回）、親睦ゴルフ大会（春・秋季）、支部便り発行（年 1 回）、その他、不定期の会合等

● 支部紹介

当支部は、江平英雄氏（昭和 33 年 土木卒）を中心とした先輩方の御尽力により、昭和 56 年に発足し、今年で 33 年を迎える歴史ある支部です。発足当時より、在県の芝浦工業大学卒業生が集う、楽しい支部で、現在でも平成 24 年卒業の会員から昭和 33 年卒業の大先輩が在籍しております。また、一昨年頃より、20 歳代から 30 歳代の会員が増え、若手会員の分会の結成も計画しております。

さらに近年は、新春交流会や親睦ゴルフ大会などの支部交流行事だけではなく、東北 6 県の校友会各支部や荒波会という土木科卒業生の会との交流も実施しており、たいへん活発に活動しております。

その他、昨年開催された第 2 回芝浦工業大学生涯学習センター主催のロボットセミナー in 仙台のお手伝いや、芝浦工業大学後援会との交流など、大学や在校生の父兄の方々との関わりも大切にしております。

宮城県在住で、校友会宮城支部へご登録いただいていない卒業生の皆様、ご興味がございましたら是非一度ご連絡ください、皆様からのご連絡・ご参加お待ちしております。



平成 25 年度 定時総会



親睦ゴルフ大会

山形支部



支部長名 川越 進
 卒業年度 昭和46年
 卒業学科 土木工学科

校友会会員の皆様には、新しい年を迎えられ益々ご活躍の事とお喜びを申し上げます。

近年、日本を取り巻く気象等の自然環境の変化に対し私達の生活を根底から見直す事が必要ではと考え、更には、過去に経験をした事がない東日本大震災を経験し、土木工学をかじった一人として、脈々として築きあげた国民の土台である社会資本の行く末を心配している今日この頃です。

さて、山形県支部は過去において活動していた時期もありましたが、近年は休眠状態が続いておりました。しかし、平成19年に校友会本部の野溝常任幹事から連絡を頂き、10月26日に野溝氏を山形に迎え県内在住者8名による山形支部活性化会議を開催し支部活動を再開することとし、翌年2月23日に再び支部総会を開催し現在に至っております。この間、校友会本部からは山形県支部旗を贈呈して頂き、五十嵐理事長からはわざわざ支部総会に出席頂くなど校友会本部の温かいご支援により活動を継続している状況であります。

現在、山形県支部活性化への取り組みとして、総会参加者を少しでも増やすきっかけとなるよう、支部役員が各地域へ出向き懇親を深める活動を始めたところです。山形県の生活圏は4地域(村山、米沢、最上、庄内)に分かれており、第1弾として米沢で開催しようということで、米沢在住の役員が2年越しに地域内の連絡に奔走し、平成24年12月15日に米沢地区内会員7名の参加をいただき懇談会を開催することができました。次回は庄内地域で開催するべく庄内在住役員に汗をかいてもらっているところであります。このような活動を通じて活性化に取り組んでおりますが、今後とも校友会本部の皆様には温かいご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

今東北の、特に岩手県、宮城県、福島県の3県は復興に向けて大変な状況にあります、私達は工学の技術力を通じて少しでも役に立てるよう、また、校友会の交流を通じて東北全体が良くなるよう努力致しますので全国の校友会会員の皆様にも温かい目で見守って頂ければ幸いです。



山形の手作りの地酒



朝日川酒造株式会社

山形県西村山郡河北町谷地乙93

福島支部

支部長名 濱田 英晴
卒業年度 昭和 45 年
卒業学科 二部機械工学科

私は昭和 19 年東京の深川の生まれです。隅田川沿いの工業高校を卒業後就職しましたが、大卒と給料の違いに面白くなく大学に行くことにしました。その時の大卒が芝浦でしたので、受験、入学した次第です。芝浦卒業後プラントエンジニアリング会社に就職、昭和 52 年現在のいわき市に出張、その後転勤、出張所閉鎖に伴い、独立起業し現在至っています。校友会福島支部には支部設立 3 年後位に入会致しました。当時の福島支部は事務局の佐川節夫氏（平成 24 年没、平成 24 年校友会功労賞受賞）が全面的に支えておりました。その後も佐川さんが支部長、事務局兼務で、会員拡大や、親睦を図るため色々な企画を立て支部を引っ張って来ました。4 年位前から我々も協力しようとの気運が高まり、皆さんが協力して頂ける事で、私が支部長を引き受ける事になりました。

福島県は広い為、浜通り、中通り、会津地方の 3 方部制とし、支部長は交代制と成りました。

福島は東日本大震災以降、津波被害、原発災害と問題山積しておりますが、3 方部力合わせて、楽しい支部にしていきたいと考えております。



平成 24 年支部総会 中央左支部創設者平川氏、中央右濱田英晴

News

皇太子殿下が芝浦工大をご訪問下さいました

皇太子殿下は平成 25 年 8 月 27 日、「第 5 回国際デザイン学会連合国際会議」における開会式にご臨席のため、芝浦工業大学に行啓になりました。

当日は芝浦工業大学 村上雅人学長が皇太子殿下を開会式にご案内いたしました。

皇太子殿下は開会式において「デザインは、製品・環境・サービスなどに必要とされる機能や要求を整理・統合し、まとまりを持ちつつ経済的で効率的、かつ心地よいものにする、あるいは美しい形にまとめ上げる行為です。そのためには、知を統合し、生活の質の改善を探るデザイン学の研究が必要であり、すべての人にとって使いやすく快適な施設、製品、情報のデザインが増えていくことなどを通じ、多様な人々の生活の質の向上に尽力していることに深く敬意を表します」と英語であいさつされました。

開会式後は、グッドデザイン賞受賞製品などの受賞作品を熱心にご視察されました。



芝浦工業大学が「江戸っ子1号プロジェクト」に協力しました

東京下町の中小企業が集まり、世界初の商業探査機を開発して 8000m を超える深海探査にチャレンジする「江戸っ子1号プロジェクト」に芝浦工業大学は技術協力をしており、機体のデザイン、設計、撮影用カメラの制御、通信機器の開発などの点で企業と共に取り組んできました。

その結果、水深約 7800m 地点でヨコエビ類と魚類の撮影に成功しました。海洋研究開発機構によると、超深海の魚類を 3D ハイビジョンビデオで撮影に成功するのは、世界初の快挙とのこと。また、投入した 3 機すべて回収を行うことができ、全体として実験成功という結果となりました。



新年賀詞交歓会を開催しました

平成 26 年 1 月 24 日、校友会主催の新年会が、芝浦キャンパス 8 階にて催されました。今年当初予定していた 31 日が、大学入試と重なるため急ぎょ日程を変更し、開催いたしました。突然の変更にも関わらず、今年も多く卒業生、大学関係者でにぎわいました。

当日は芝浦工業大学 五十嵐理事長、村上学長、早坂後援会会長に、新年のご挨拶を賜りました。新支部長や、校友会が主催する実学サロンの講師の方々にもご出席をいただき、交流を深めました。出席人数は約 170 名でした。



校友会「会員名簿」および 2014 年「新卒業生追補版」発刊について

校友会では、会員同士の連絡を取り易くすることが会員各位のお仕事や同好活動に役立ち、いずれ会員組織の活性化に繋がるとの考えのもとに、2006 年に会員名簿を制作し販売してまいりました。その後この名簿を補完する形で毎年新卒者の名簿を制作しており、2014 年 3 月新卒業生の方についても追補版を発刊いたします。

《ご利用について》

2006 年に発刊した名簿は従来の卒年、学科単位の名簿ではなく、各県別、郵便番号順に編集したものです。

このため、各市町村にどのような会員（卒業生）がおられるか、また、お勤めの会社にどのような先輩、後輩がおられるか把握でき、会員同士の繋がりと、利用し易さを目指し編集したものです。

なお追補版についてはいずれも編集時間の関係から学科別掲載とさせていただきます。

《名簿への通し番号の付与について》

名簿の販売については個人情報保護法の精神を尊重するため一つの方法として全ての名簿に通し番号を付し、販売先が確認できるようにしました。是非、個人の利用のみに留めて頂きたいと考えております。

《名簿の販売について》

名簿の販売は 1 冊 5,000 円です。追補版のみご希望の方には 1 冊 500 円で販売しております。名簿購入ご希望の方は「名簿購入」と記入し、氏名、卒年、学科および送付先を明記し左記口座にご送金ください。ご入金確認後、発送いたします。振込用紙をご希望の方は事務局までご連絡ください。

また購入に関するご質問は右記校友会事務局までお問い合わせください。

●名簿代金振込先

郵便局 加入者名：芝浦工業大学校友会
口座番号：00160-5-9575

●名簿の購入に関するお問合せ

【芝浦工業大学校友会事務局】

〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目9番14号 芝浦工業大学内
TEL：03-5445-9634 FAX：03-5445-9635
E-mail：sitfriends@shibaura-koyu.jp

●住所変更等に関するお問合せ

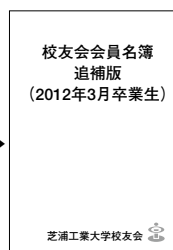
【学校法人芝浦工業大学 総務課】

〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5
TEL：03-5859-7010 FAX：03-5859-7011
E-mail：somu@ow.shibaura-it.ac.jp



◀ 5,000円
(送料込)

▶ 追補版
500円
(送料込)



印刷中（写真は2012年度版）

御寄付の御礼

箱根駅伝出場を目指す芝浦工業大学陸上部支援のため御寄付を賜りました。
ご支援頂き誠にありがとうございます。

寄付者一覧（敬称略）

平成24年ホームカミングデー参加者	33,375円	
高知支部	34,400円	
岐阜支部	45,000円	
静岡県同窓会支部	80,000円	
岩手支部	15,000円	
後援会OB会	4,000円	
住芝会	5,000円	
芝浦工業大学後援会	100,000円	
関西支部	44,130円	
平成25年ホームカミングデー参加者	44,408円	
東京総支部	57,815円	
薩川論	若松昭	鈴見健夫
望月政明	加藤善次郎	御厨康司
村松弘彦	島崎進	ミヤウチ ヒロナガ
西田元輝	オカモト タクゾウ	ナイトウ タケル
上村敦男	サトウトシアキ	シゲマツ タク
山田徹一	マツモト ユキオ	金井昭三
杉本憲一	マルタニ ケイコ	カネコ タケヒロ
三須俊彦	コバヤシ カツヒコ	ホリウチ トオル
青木伸蔵	橋本喜久男	オオバ タカオ
加来武彦	マツオ ヨシノリ	澤口 洋
羽二生登	オノ キヨシ	スエハラ イツジ
渡邊勉	オガワ ミノル	枝広英俊
木下敏治	オガワ タツオ	角野和明
横山隆夫	セキオ タカオ	渡辺 碩
井村弘道	エビハラ ヨウイチロウ	
松村和彦	ヤマモト イサム	

皆様のご協力とご厚志に深く御礼申し上げます。

編集者・協力者 一覧

（順不同、敬称略）

◆ 編集者

芝浦工業大学校友会 総務委員会
 泉澤定雄 (S46・建築卒)
 奥村克夫 (S39・電気卒)
 小川誠 (S41・機Ⅱ卒)
 加藤浩 (S44・機械卒)
 小平和一郎 (S45・電子卒)
 赤井和憲 (S47・土木卒)
 野口博文 (S47・土木卒)
 田中一男 (S55・建築卒)
 中根眞行 (S55・工経卒)
 荻谷義治 (H2・金属卒)
 柏倉隆行 (H12・機制卒)

◆ 校友会事務局

岩本行雄
 田口侑子
 三浦敏枝

◆ 協力者

伊藤嘉将 (平成10年・機械工学第二学科卒)
 清水六 (平成14年・機械制御システム学科卒)

◆ 表紙デザイン

長谷部美紅 (建設工学専攻 2年生)
 井出惇也 (建築学科 4年生)

ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

「校友倶楽部」が5周年を迎えました!

皆様のより一層のご利用を心よりお待ちしております。



【ホワイトラウンジ】



【ブラックラウンジ】

芝浦工業大学校歌 CD(¥2,000…送料込)販売



「曲目」

1. 芝浦工業大学校歌
2. 応援歌
3. 校歌演奏

指揮：金 洪才
 独唱：望月哲也
 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団

校歌：作曲・山田耕作
 作詞・北原白秋

●CDに関するお問い合わせ先

【芝浦工業大学校友会】

〒108-8548

東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内

TEL03-5445-9634 FAX03-5445-9635

e-mail:sitfriends@shibaura-koyu.jp

●振込先

郵便局：加入者名：芝浦工業大学校友会

口座番号：00160-5-9575

校歌

山田耕筈 作曲
 北原白秋 作詞

一、朝日に輝く 風と潮

雄大空あり 雲は移る

揚げよ校旗の 翩翩たるを

白亜の殿堂 ここに聳え

われらが工学 英気鐘む

芝浦 芝浦 我等が母校

二、世紀に脈うつ 熱と理性

剛健矩あり 常に鍛う

行へながらに 淡刺たれや

師弟の純情 一に依りて

磨くにこの技 神に通ず

芝浦 芝浦 我等が母校

三、永遠に栄ゆく 意志と秩序

誠実ただあり 道は徹る

夢むな空理の 漠々たるを

精微をきはめて 事に即かば

工学日本 大を成さん

芝浦 芝浦 我等が母校



芝浦工業大学 校友会